

2021(令和 3)年度 事業報告書

(2021(令和 3)年 4 月 1 日から 2022(令和 4)年 3 月 31 日まで)

学校法人 松蔭女子学院

目次

はじめに

理事長、学長、校長メッセージ	1
I 法人の概要	
1. 法人の名称、主たる事務所の所在地	4
2. 法人設置の目的、建学の精神	4
3. 学校法人の沿革	4
4. 設置する学校、学部学科、入学定員等	7
5. 学部学生数の状況	8
6. 収容定員充足率	8
7. 役員（理事・監事）に関する事項	8
8. 評議員に関する事項	9
9. 教職員に関する事項	10
10. 校地・校舎等面積	10
II 事業の概要	
1. 法人	11
2. 中学校・高等学校	13
・中期計画及び事業計画の進捗・達成状況	25
3. 大学	26
・中期計画及び事業計画の進捗・達成状況	45
III 財務の状況	
1. 決算の概要	49
(1) 貸借対照表関係	49
(2) 資金収支計算書関係	50
(3) 事業活動収支計算書関係	52
2. その他	
(1) 有価証券の状況	53
(2) 借入金の状況	53
(3) 学校債の状況	53
(4) 寄付金の状況	54
(5) 補助金の状況	54
(6) 収益事業の状況	54
(7) 関連当事者との取引の状況	54
(8) 学校法人間財務取引の状況	54
3. 経営状況の分析と経営上の課題	55
4. 財産目録	56
5. 監事の監査報告書	57
IV 対処すべき課題	
1. 中学校・高等学校の教育関係	58
2. 中学校、高等学校の生徒募集計画	58
3. 大学の新学部・新学科等の増設等	58
4. 大学の教育・研究関係	58
5. 大学の学生募集計画	59

学校法人 松蔭女子学院

2021(令和 3)年度 事業報告書

(2021(令和 3)年 4 月 1 日から 2022(令和 4)年 3 月 31 日まで)

知恵は自分の家を建てるが、愚かさはその手でこれを壊す。

箴言 14:1 (フランシスコ会訳)

学校法人松蔭女子学院
理事長 中村 豊

コロナ禍で授業や課外活動に制限が課せられていた状態のなか、昨年同様、今年度も予定した入学者数を確保することができない結果となった。学院創立 130 年前年にこのような事態に陥ったことは誠に残念ではあるが、この状況を学院の将来を見据える絶好の機会として捉える必要がある。学院 130 年の歴史を垣間見るとき、その全てが順風満帆であったわけではない。時代に翻弄され、苦難に満ちた戦前の経験を忘れてはならない。

聖公会キリスト教の伝道学校として松蔭女学校が開学した 2 年前の 1890 年、日本という国は天皇を中心とした国家であり、忠君愛国主義と儒教的道徳が学校教育の基本であるとした教育勅語が發布された。文部当局にとっては、聖書を教え、日々、礼拝を守るキリスト教学校教育は危惧すべきものとされ、1899 年、文部省は宗教教育を禁じる訓令第 12 号を發布し、文部大臣の規程に基づく教育を施す学校がこれを遵守しない場合、上級学校への進学や徴兵猶予などの特典を取り消すことを通知してきた。キリスト教学校関係者有志は訓令を撤回するよう粘り強く訴えた結果、これを弾力的に運用することとなり 2 年後には高等学校進学の権利が、1904 年には上級学校への進学や徴兵猶予などの特典が回復された。1922 年、学院の高等女学校設立が認可され、「訓令第 12 号」に該当する学校となったが、宗教教育禁止の原則が覆ることはなく、キリスト教学校の動向監視機能は、敗戦後までその効力を温存していた。

1941 年、日本は欧米に戦争を布告し、学院の外国人宣教師が国外退去となり、その翌年、教育理念の象徴的存在であるチャペルが撤去され、これに代わり、御真影を拝載し安置するための奉安殿が構内に建立された。25 教会の内 20 教会がプロテスタント合同教会（日本基督教団）への参加に反対した日本聖公会神戸教区は 1943 年に解散させられ、学院と神戸教区との関係も途絶えてしまい、半世紀の間、保持されてきたキリスト教学校としての学院の基が崩れたなかで敗戦を迎えたのである。

1945 年、「愛と正義と平和の基盤でキリスト教教育を復旧強化する」ことが学院理事会で決議され、本学院の基盤が復活した。空襲でその 7 割を消失した校舎再建のために外国聖公会に資金援助を訴え、国内の義捐金と併せて再建費用を捻出することができた。1951 年、聖公会キリスト教精神に基づく教育を施すための学校法人を設立し、これによって、自律した学院としての第一歩が踏み出された。

「自律」とは英語で“autonomy”と言い、ギリシャ語の auto=自分、nomos=法が語源である。学院自身が法をつくって学校経営を行う自治権を指す。兵庫県南部に位置する地域社会と教育機関との協働のなかで、学院の特質を活かした教育の実施が求められて今日に至っている。1950 年代までの学院経営は、外部からの様々な援助によって成り立ってきたが、今はそのような甘えは許されない。学院の強みや弱みを直視して危機意識を抱き、変化の激しい社会に対応できる教育のビジョンを共有するため、持てる知恵と力を結集するのが喫緊の課題である。

コロナ禍で大学の役割を再認識し、さらに充実した教育へ

神戸松蔭女子学院大学

学長 待田 昌二

新型コロナウイルス感染症への対応に神経をとがらせていた2020年春は、政府による小中高등학교全国一斉臨時休業をはじめとして、社会全般において外出制限が要請され、大学においてもすべての授業をオンラインで実施するという前代未聞の事態となった。一方でその時は、ワクチンが開発されれば1年ほどで元の社会に復するのではないかという期待が語られていた。しかしながら、2021年度もまたコロナ禍の1年となった。

2021年度は対面授業を中心としながら、キャンパス滞在者を抑制するために、学科・学年によって特定曜日の授業を遠隔実施するという形で授業を開始した。しかし、大学生を含む若い世代の感染者が急増したことから、兵庫県より県内大学に対してオンライン授業を積極的に活用することとの要請が出され、授業開始から1カ月も経たない内に、遠隔授業中心の授業形態へと変更することとなった。その後、さらに感染状況が悪化し兵庫県などを対象とした緊急事態宣言が発出されたが、宣言の解除に伴い対面授業中心に戻すというように、感染状況と県などの要請を見ながらの対応となった。7月からは神戸大学の協力を得て、学生・教職員を対象とした新型コロナウイルスワクチン職域接種を実施することができた。ワクチン接種は、感染症発症率や発症時の重症化を抑制するという大きな役割を果たしていると考えられるが、変異株の出現などもあり社会生活がコロナ前の状況に復するまでに至ってはいない。

同一学期内に対面授業から遠隔授業に切り替わることは、もちろん望ましいことではない。授業を準備する教員にとって大きな負担であった。また、対面授業で行っていても、感染症に罹患した、濃厚接触者になった学生への対応、感染症に類似した症状の学生の登校を控えてもらうために、常に授業を録画して視聴できるようにするといった対応が必要になる。最初から最後まで遠隔授業で行う方が、はるかに対応しやすいと言える。しかし、感染状況の許す限りできるだけ対面授業で行う形とした。やはり、遠隔では授業方法が限定される上に、学生の反応が十分に把握できない。そして、大学キャンパスの各施設は学生が利用するために存在していることは言うまでもないことであり、その場において学生と教員間、学生同士が交流を行って大学という特別なコミュニティを形成することの重要性を、コロナ禍を経験して再認識したからである。

もちろんそれは、本学の教育が単にコロナ前に戻ることを意味するのではない。遠隔授業実施によって進んだ教育のICT化と学生のICT能力の向上を、学習管理システム（松蔭 manaba）の利用徹底やMicrosoft 365の学生への提供などによって維持・発展させていく。2022年度入学生からはキャンパスでのPC必携化（BYOD: Bring Your Own Device）により、情報教育科目だけでなく学科専門教育科目を含む幅広い授業で情報技術を主体的に活用できる力の養成を行う。そのために2021年度は、キャンパスでのPC必携化に対応した施設設備の整備を進めた。

学院創立130周年という節目の年をウイズ・コロナで迎えることになったが、教育の充実とキャンパスの魅力の向上を止めることなく進めていかなければならない。

学校を「リフレーミング」する

松蔭中学校・高等学校

校長 浅井 宣光

コロナ禍が学校の ICT 活用に拍車をかけた。「ICT 三種の神器」も整った。生徒、教員ともに各自のデバイス、クラウド上のアカウント、通信環境の 3 点セットを手に入れている。ある教員は濃厚接触者となり、自宅からリアルタイムで授業配信した。学びのスタイルは、学級一斉授業から習熟度別授業の段階を経て、ICT による「個別最適化」へと舵を切っている。本校が「オンライン英会話」授業を一部に導入したのは 7 年前だ。ネットでつながるマンツーマンの外国人講師が、個人家庭教師のように英語力に合わせて話しかける。「個別最適化」学習の「はしり」と言えよう。今年度の中学 3 年生に AI (人口知能) タブレット教材 “Qubena” (キュビナ) を試験的に導入し、国数社理英の 5 教科で利用し始めた。理解度に合わせて AI が問題を選択して出題し、間違えると同じ傾向で再出題して弱点を補う。難易度や進度が個別に最適な内容へとアレンジされるので、「適応型学習 (アダプティブラーニング)」と呼ぶ。中学全学年で英語学習アプリ “English Central” を使用している。レベル別の英語動画を視聴し、スピーキング練習は、AI が適切なレベルのダイアログを提示する。データに残る学習履歴は効率的な学習を推進するとともに、生徒全体の「ビッグデータ」として進路、受験指導全般にも活用できる。

スマホ片手の子育てのなかで成長してきた中高生である。真の「デジタルネイティブ」世代には、AI 時代の恩恵を享受する資質が備わる。聖書が「新しいぶどう酒は新しい皮袋に」(ルカによる福音書 5 : 36~39) のたとえを語るように、最新の教育コンテンツは、学校の新しい「枠組み (フレーム)」のなかに注ぎ込むことが適している。本校も中学ストリーム制、高校新コース制をはじめ、学校の「リフレーミング」(新たな枠組みづくり) を続ける。

「リフレーミング」は心理学の用語でもある。ある事象について視点を変えて捉え直し、心理状態を改善しようというスキルである。「些細な事に拘る神経質な性質」は、「物事に細やかな注意を払う丁寧な人柄」である。マンモス女子校が学校改革、教育改革に遅れを取り、少子化と共学志向の渦に巻き込まれた。コンパクトになった学校の経営状態は厳しいが、教員と生徒、保護者の関係は一層濃密で距離感が近い。生徒と保護者の顔 (最近父親も増えた)、所属クラブの情報程度なら校長がインプットすることも簡単だ。欠席していた生徒に「体調は戻りましたか」と尋ね、保護者参観の日には「先日の試合、頑張っていましたね」と声をかける。校内の教育相談室 (カウンセリングルーム) には、公認心理士資格を持つカウンセラー 3 名が毎日当番制で詰め、生徒、保護者、そして教員を支援する。管見の限り関西圏の公私立中学、高校では大阪の中高一貫校 1 校と本校のみだ。保護者対象の学校評価アンケートを実施する。「子供を松蔭に入学させて良かった」の回答は、2021 年度は「とてもそう思う」=62%。アンケート実施初年度の 12 年前は「とてもそう思う」=34%にとどまっていた。今日の松蔭を「リフレーミング」すれば、創立以来、真面目に生きてきた学校の「強み」のようなものがそこかしこに散らばっている。

小文の結論は、未来に対応する新しい教育コンテンツの導入と私たちの日々の教育実践、この 2 つを両立させることは十分可能だという点だ。「新しい革袋」から注がれるフレッシュな「新しいぶどう酒」と、重厚で渋い 130 年物の「古いぶどう酒」の両方のグラスを傾けながら、“Be encouraged. (自信をもとう)”と乾杯の声を交わしながら明日に向かいたいものだ。

I 法人の概要

1. 法人の名称、主たる事務所の所在地

法人の名称：学校法人松蔭女子学院

主たる事務所の所在地：兵庫県神戸市灘区篠原伯母野山町1丁目2番1号

電話番号（代表）：078-882-6122

2. 法人設置の目的、建学の精神

学校法人松蔭女子学院は、建学の主旨たるキリスト教精神に基づき、教育基本法、学校教育法及び私立学校法に則り教育事業を行うことを目的として、1951(昭和26)年に設立された。現在は大学院、大学、高等学校、中学校を設置し、いずれにおいても聖公会キリスト教精神に基づく教育を実践することを目的に、知識習得や勉学・研究内容の向上だけではなく、人格の完成と心身ともに健康な社会人を育成することを教育目標としている。

【松蔭女子学院のモットー】

聖書にイエスの言葉として以下のように書かれている。

「神の国を何にたとえようか。どのようなたとえで示そうか。それは、からし種のようなものである。土に蒔くときには、地上のどんな種よりも小さいが、蒔くと、成長してどんな野菜よりも大きくなり、葉の陰に空の鳥が巣を作れるほど大きな枝を張る」(マルコ 4:30-32)

イエスは、小さなからし種でも、この種に、姿かたちを変えながらの成長を期待して神の愛と恵みが注がれるならば、やがて鳥が枝に巣を作るほどの木になると約束した。

松蔭女子学院という場での学びを通して、絶えず自分を見つめ直して古い殻を破り、新しい自分を発見することによって個性を確立し、社会に貢献する女性としての成長を促すのが松蔭女子学院の教育理念である。

3. 学校法人の沿革

明治25年1月 英国聖公会 S.P.G.より派遣されたヒュー・J・フォス師らによって、神戸市山本通（現在の北野町）に松蔭女学校創立

明治32年12月 文部省より私立学校令による設立認可

明治44年5月 文部省より専門学校入学者検定第8条第1号による指定を受ける

大正4年4月 私立松蔭高等女学校に改称

大正11年3月 私立松蔭高等女学校財団法人設立

昭和5年4月 専攻科設置(修業年限1年)

昭和22年3月 松蔭女子専門学校設立認可

昭和22年4月 学校教育法により松蔭中学校設置

昭和23年4月 学校教育法により松蔭高等学校設置

昭和25年3月 松蔭女子専門学校廃止、松蔭短期大学(英文科、キリスト教科)設置

昭和26年3月 学校法人松蔭女子学院寄附行為認可

昭和28年4月 短期大学に服飾科増設

昭和35年4月 短期大学に家政科増設

昭和37年4月 短期大学に日本文学科増設

- 昭和 41 年 4 月 松蔭女子学院大学(文学部 キリスト教学科、英米文学科、国文学科)設置、これに伴い短期大学キリスト教科、日本文学科を廃科
- 昭和 44 年 4 月 短期大学学科呼称変更、英文学科、服飾学科、家政学科と改称
- 昭和 49 年 4 月 松蔭短期大学を松蔭女子学院短期大学と校名変更
- 昭和 55 年 4 月 六甲学舎第 1 期工事竣工に伴い、短期大学青谷より移転
大学キリスト教学科廃科
- 昭和 56 年 4 月 六甲学舎第 2 期工事竣工に伴い、大学垂水より移転
- 昭和 56 年 9 月 六甲学舎第 3 期工事竣工、大学・短期大学統合学舎完成
- 昭和 61 年 4 月 短期大学英文学科専攻課程設置(英文学専攻、英語学専攻)、家政学科専攻課程設置(生活科学専攻、食物栄養専攻)
- 昭和 61 年 4 月 短期大学家政学科食物栄養専攻が栄養士養成施設として指定される
- 平成 3 年 4 月 短期大学服飾学科を生活造形学科、家政学科を生活科学科に名称変更
- 平成 4 年 4 月 大学文学部英米文学科を英語英米文学科に名称変更
- 平成 4 年 9 月 学院創立 100 周年
- 平成 7 年 4 月 大学・短期大学の校名をそれぞれ神戸松蔭女子学院大学、神戸松蔭女子学院短期大学に変更
- 平成 12 年 4 月 大学院文学研究科(修士課程 英語学専攻、国語国文学専攻)設置
大学文学部に総合文芸学科設置
短期大学英文学科の専攻毎の学生募集停止(専攻課程廃止)
短期大学英文学科を英語コミュニケーション学科に名称変更
- 平成 13 年 4 月 大学文学部に心理学科設置
- 平成 14 年 4 月 大学院文学研究科博士課程(言語科学専攻)設置
- 平成 16 年 4 月 大学院文学研究科修士課程に心理学専攻設置
大学に人間科学部心理学科設置
大学文学部心理学科学生募集停止
- 平成 17 年 4 月 大学人間科学部に生活学科(都市生活専攻、食物栄養専攻)設置
短期大学生活科学科(生活科学専攻、食物栄養専攻)の学生募集停止
神戸松蔭女子学院短期大学を神戸松蔭女子学院大学短期大学部に校名変更
大学人間科学部生活学科食物栄養専攻が管理栄養士養成施設として指定される
- 平成 19 年 大学 60 周年記念事業実施
- 平成 19 年 9 月 短期大学部生活科学科(生活科学専攻、食物栄養専攻)を廃止
- 平成 20 年 4 月 大学人間科学部に子ども発達学科、ファッション・ハウジングデザイン学科を設置
大学文学部英語英米文学科、国文学科収容定員を変更
短期大学部英語コミュニケーション学科、生活造形学科の募集を停止
- 平成 21 年 4 月 大学人間科学部子ども発達学科が指定保育士養成施設に指定される
- 平成 22 年 4 月 大学 文学部心理学科を廃止
(財) 大学基準協会 大学評価(認証評価)の結果、大学基準適合認定を受ける。

- 平成 23 年 4 月 文学部英語英米文学科、国文学科の学生募集停止
文学部総合文芸学科、人間科学部心理学科の収容定員変更
文学部に英語学科、日本語日本文化学科を設置
- 5 月 神戸松蔭女子学院大学短期大学部を廃止
- 平成 24 年 学院創立 120 周年記念事業実施
- 平成 27 年 4 月 認定こども園松蔭おかもと保育園開園(系列社会福祉法人松蔭ミカエル福祉会)
- 平成 28 年 4 月 (財) 大学基準協会 大学評価(認証評価)の結果、大学基準適合認定を受ける。
- 平成 29 年 3 月 文学部英語英米文学科、国文学科を廃止
- 4 月 人間科学部生活学科学生募集停止
人間科学部に都市生活学科、食物栄養学科を設置
- 平成 31 年 4 月 教育学部教育学科を設置
人間科学部子ども発達学科学生募集停止
文学部英語学科の収容定員変更
文学部総合文芸学科の学生募集停止
- 令和 3 年 4 月 大学院文学研究科言語科学専攻(博士後期課程)の学生募集停止

4. 設置する学校、学部学科、入学定員等

(1)神戸松蔭女子学院大学大学院

所在地:657-0015 神戸市灘区篠原伯母野山町1丁目2番1号

			入学定員
文学研究科	修士課程	英語学専攻	5人
		国語国文学専攻	5人
		心理学専攻	10人
		合計	20人

(2)神戸松蔭女子学院大学

所在地:657-0015 神戸市灘区篠原伯母野山町1丁目2番1号

			入学定員	
文学部	英語学科	英語プロフェッショナル専修	100人	
		グローバルコミュニケーション専修		
		日本語日本文化学科		60人
		小計		160人
人間科学部	心理学科	都市生活学科	70人	
		都市生活専修	100人	
	食ビジネス専修			
	食物栄養学科	60人		
	ファッション・ハウジングデザイン学科	60人		
	小計	290人		
教育学部	教育学科	幼児教育専修	120人	
		学校教育専修		
		小計		120人
		合計		570人

(3)松蔭高等学校

所在地:657-0805 神戸市灘区青谷町3丁目4番47号

		入学定員
全日制課程	普通科	350人

(4)松蔭中学校

所在地:657-0805 神戸市灘区青谷町3丁目4番47号

		入学定員
		315人

5. 学部学生数の状況

神戸松蔭女子学院大学

(2021年5月1日現在)

	入学定員	入学者数	収容定員	現員数
文学部	160	121	700	693
人間科学部	290	259	1240	1239
教育学部	120	55	360	268

6. 収容定員充足率

神戸松蔭女子学院大学

(2021年5月1日現在)

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
学部全体	78%	79%	87%	96%	96%

7. 役員（理事・監事）に関する事項

(1) 理事

定数：11人以上16人以内 現員：14人

	役職名等	勤務形態	氏名	現職	就任年月日
1	理事長	非常勤	中村 豊	理事長	平 28.4.4
2	常務理事	常勤	郡司 隆男	大学教授・院長	平 20.4.1
3	常務理事	常勤	待田 昌二	大学教授・学長	平 28.4.1
4	常務理事	常勤	浅井 宣光	中高校長	平 22.4.1
5	常務理事	常勤	永井 良昭	法人事務局長	平 18.4.1
6	常務理事	常勤	坂本 真佐哉	大学教授・副学長	令 2.4.1
7	常務理事	常勤	片平 理子	大学教授・副学長	令 2.4.1
8	常務理事	常勤	芳田 克巳	高校副校長	平 23.4.1
9	常務理事	常勤	澤田 知之	中学副校長	平 30.4.1
10	常務理事	常勤	上野 智子	大学事務局長	平 30.7.1
11	常務理事	常勤	番場 靖子	中高教諭	平 26.4.1
12	理事	非常勤	西原 興一郎	会社役員	平 31.4.1
13	理事	非常勤	檜山 和司	会社役員	令 2.4.1
14	理事	非常勤	山形 紀世美	同窓会長	令 2.4.1

(2) 監事

定数：2人以上4人以内 現員：2人

	役職名等	勤務形態	氏名	現職等	就任年月日
1	監事	非常勤	山口 純	米国会計士	令 2.4.1
2	監事	非常勤	光葉 正博	会社役員	平 30.4.1

(3) 役員賠償責任保険の状況

- ・ 本学の役員等が、自らの業務に起因して損害賠償請求を受けた場合の役員の経済的・精神的な負担を軽減すると共に安定的な経営を行うべく、日本私立大学協会の団体制度である「私大協役員

賠償責任保険制度」に加入している

・契約内容の概要は以下のとおり。

① 保険期間:令和3年4月1日～令和4年4月1日

② 支払限度額:500,000,000円

③ 被保険者:理事、監事、評議員、管理職従業員、退任理事・評議員

8. 評議員に関する事項

定数:23人以上 37人以内 現員:29人

	氏名	就任年月日	現職等
1	郡司隆男	平 20.4.1	大学教授・院長
2	待田昌二	平 24.4.1	大学教授・学長
3	浅井宣光	平 16.4.1	中高校長
4	永井良昭	平 12.4.1	法人事務局長
5	片平理子	令 2.4.1	大学教授・副学長
6	坂本真佐哉	平 28.4.1	大学教授・副学長
7	芳田克巳	平 18.4.1	高校副校長
8	澤田知之	平 28.4.1	中学副校長
9	田中まき	平 28.4.1	大学教授
10	竹中康之	平 20.4.1	大学教授
11	上野智子	平 30.7.1	大学事務局長
12	高瀬小織	令 2.4.1	大学職員
13	番場靖子	平 20.4.1	中高教諭
14	大槻泰史	平 30.4.1	中高教諭
15	永井晃	平 24.4.1	中高教諭
16	上原美由紀	令 2.4.1	中高教諭
17	松田宣子	平 20.4.1	大学教授
18	山形紀世美	平 29.4.1	大学同窓会長
19	トーマス三香	令 2.4.1	中高同窓会長
20	富士ひろ子	平 29.6.1	会社役員
21	中村 豊	平 13.4.1	理事長・聖職者
22	沼田弘志	令 2.4.1	学識経験者
23	小林尚明	令 3.4.1	聖職者
24	西原興一郎	平 15.6.1	会社役員
25	檜山和司	平 22.5.29	会社役員
26	岩田弘三	平 18.4.1	会社役員
27	上野祐子	平 28.4.1	会社役員
28	平井豊和	平 24.4.1	学識経験者
29	沢松順子	平 26.6.1	学識経験者

9. 教職員に関する事項

(1) 教 員

	(専 任)	(常勤講師)	(非常勤講師)
大学 文学部	26 人	—	62 人
大学 人間科学部	41 人	—	122 人
教育学部	24 人	—	35 人
(大学専任教員の平均年齢)	(54 歳)	—	—
小計	91 人		219 人
高等 学校	25 人	1 人	13 人
中 学 校	21 人	4 人	9 人
小計	46 人	5 人	22 人
計	137 人	5 人	241 人

(2021 年 5 月 1 日現在)

(2) 職 員

	(専 任)	(非常勤職員)	(派遣職員)
法人本部	(*7 人)	(*1 人)	—
大 学	77 人	36 人	20 人
高等学校	5 人	11 人	—
中 学 校	5 人	5 人	0 人
計	87 人	52 人	20 人

*法人本部職員は、大学、高等学校の職員が兼務 (2021 年 5 月 1 日現在)

10. 校地・校舎等面積

(1) 校地等面積

(名 称)	(面 積 m ²)
六甲キャンパス	60,461.43
野外訓練場	16,049.00
松蔭大学会館	1,899.35
大山ロッジ	32,853.00
青谷キャンパス	17,997.16
千と勢会館	795.46
合 計	130,055.40

(2) 校舎等面積

(名 称)	(面 積 m ²)
六甲キャンパス	34,266.26
松蔭大学会館	5,064.71
大山ロッジ	686.26
青谷キャンパス	21,975.89
千と勢会館	936.09
合 計	62,929.21

II 事業の概要

1. 法人

学院運営のため、理事会、評議員会、常務理事会を以下のとおり開催した。開催日時、議案については次のとおり。

(理事会:2回開催、評議員会:2回開催、常務理事会:12回開催)

【理事会】

- ① 日 時 令和3年5月28日(金) 午後6時～7時
場 所 神戸松蔭女子学院大学第一会議室
議 案
第1号議案 決算の件
第2号議案 事業報告の件
- ② 日 時 令和4年3月25日(金) 午後5時45分～7時
場 所 神戸松蔭女子学院大学第一会議室
議 案
第1号議案 大学学則変更の件
第2号議案 大学院学則変更の件
第3号議案 評議員の辞任・選任・退任の件
第4号議案 理事(常務理事)の辞任・選任の件
第5号議案 理事の兼業の件
第6号議案 2022年度役員賠償責任保険加入の件
第7号議案 寄付行為変更の件
第8号議案 大学会館売却の件
第9号議案 令和4年度事業計画の件
第10号議案 令和4年度予算の件

【評議員会】

- ① 日 時 令和3年5月28日(金) 午後4時30分～5時50分
場 所 神戸松蔭女子学院大学第一会議室
議 案 (報告事項)
第1号議案 決算の件
第2号議案 事業報告の件
- ② 日 時 令和4年3月25日(金) 午後4時30分～5時30分
場 所 神戸松蔭女子学院大学第一会議室
議 案
第1号議案 大学学則変更の件
第2号議案 大学院学則変更の件
第3号議案 評議員の辞任・選任・退任の件
第4号議案 寄付行為変更の件
第5号議案 大学会館売却の件
第6号議案 令和4年度事業計画の件
第7号議案 令和4年度予算の件

【常務理事会】

常務理事会は、原則として月1回開催し、学院の管理運営面の日常業務の処理に当たっている。開催日時・議案等については省略する。

なお、常務理事会の議決事項及び審議事項は次のとおりである。

(議決事項)

- 1.教職員の人事、服務、給与及び諸手当の執行に関する事項
- 2.職員の採用、昇任、昇格、異動、退職に関する事項
- 3.予算の執行に関する事項
- 4.全学に共通し、かつ、理事会の議決を必要としない諸業務の執行及び諸規程に関する事項
- 5.その他理事会から特に委任された事項

(審議事項)

- 1.理事会に提案する事項
- 2.建設計画に関する事項
- 3.教職員組合との協定に関する事項
- 4.その他理事会から特に付託された事項

II 事業の概要

2. 中学校・高等学校

(1) 執行部関係

校 長	浅 井 宣 光
副 校 長	澤 田 知 之
副 校 長	芳 田 克 巳
教 務 部 長	大 槻 泰 史
宗 教 部 長	坪 井 智
生 徒 部 長	上 原 美 由 紀
総 務 部 長	吉 川 祐 子
進路指導部長	中 川 雅 博
入試広報室部長	小 林 裕 典
事 務 長	平 田 健 二
事 務 次 長	岡 田 知 子

(2) 職員会議、その他の委員会等の開催状況

全教員（専任教諭、常勤講師）による定例職員会議を月 1 回、各学期末には成績会議を開催し、年度末に修了・進級認定並びに中学校・高校の卒業認定を行った。また、学校運営に関する諸事項を決定する校務部長・学年主任合同会議（校長、副校長、教務部長、宗教部長、生徒部長、総務部長、入試広報室部長、進路指導部長、中高学年主任およびストリーム主任）を月 1～2 回開催したほか、教科主任会議（月 1 回）、各校務部会（月 1 回）、教科会議（月 1 回）を定例の会議とした。入試委員会は、入試制度、広報や説明会運営について検討、立案した。カリキュラム委員会は、高校新課程導入および新コース制について検討した。

(3) 教学関係

① 新型コロナウイルス感染症に係る対応

感染拡大第 3 波による緊急事態宣言は前年度末に解除されていたが、第 4 波の兆候ありとの報道のなかで新年度が始まった。コロナ禍に入り始めての学校関係者感染が確認され、その後感染者が相次いだ。感染状況の把握と感染ルート解明のため「感染調査シート」を運用し、保健所、学校医との間で緊密な情報共有を行い校内集団感染の発生を防止した。早い段階で学校の一部休校措置（学級閉鎖等）の措置を行い、年間を通じて校内でのクラスター発生事例はなかった。学級閉鎖中には、全校生が利用する ICT プラットフォーム Classi を活用して学習課題を指示したり、Zoom または Teams によるオンライン授業映像を配信したりした。感染や濃厚接触により自宅待機指示を受けた生徒にも授業映像を配信した。校内では、教職員には、感染予防の基本行動（手洗い、手指消毒、マスク着用）と「濃厚接触（マスク無し、1 m 以内の距離、15 分以上会話）」回避徹底を指導し、保護者に対しては不要不急の会食等を控え、家庭内感染を防ぐよう協力を求めた。感染症関連の登校不安や、家族に風邪症状がある場合の欠席についても、「出席停止」の扱いとするなどの措置により校内にウイルスが持ち込まれることを防止した。

② 2021 年度の学校運営方針について

スクールモットー“Open Heart, Open Mind（心を開いて、思いを自由にして）”を基本理念と

して教育活動を行い、以下の学級、学校づくりを掲げた。

- 安心、安全のある学級、学校づくり。
- たがいを尊重し、多様性を認め合う、いじめをゆるさない学級、学校づくり。
- 「個」の自立と、自発的行動がある学級、学校づくり。
- ICT 情報モラルを高める学級、学校づくり。

③ 中学各学年、各ストリームの取り組み

学校運営方針のもとで各学年団教員は教育目標を定め、学習、生活両面をリンクさせ指導した。中学 1、2 年生は DS（ディベロプメンタルストリーム）と GS（グローバルストリーム）の 2 コース制により、異なる教育アプローチを行った。両ストリームとも「ストリーム」（流れ）として生徒育成の方向性は同じである。

中 1DS は学年目標を「彩（いろどり）」とし、生徒個々の多様性を尊重して個性が豊かに育まれるよう支援することを方針に定めた。学習習慣の定着には、基本的生活習慣の定着が求められる。各自の手帳を活用した自己管理、3 点固定（起きる時間・机に向かう時間・寝る時間）の意識付けを図った。朝礼前に「朝の学びの時」を設定し、各教科学習に取り組んだ。理数系志望者の基礎固めとして放課後「数学特進講座」を開講した。英語学習ではオーラル授業と ICT デバイスのアプリを組み合わせて効果的に学習に取り組んだ。「マイニュース」の取り組みでは、時事問題への関心を高めるため、各自がニュース記事をまとめて掲示物を作成した。総合学習のテーマを「マナー」とし、SNS の利用の仕方や学級でのマナー、公共の場でのマナーなどについて考える時間をもち、自身の「心のマナー」についてもカウンセラーによる特別講座を開いた。SDG s について知識を広げる活動にも取り組んだ。

中 2DS は学年目標を「生きぬく力・思いやる心」とし、中学校生活の 2 年目を迎えて行動範囲が広がるなかで、あらためて豊かな人間性を育むよう指導した。前年度から引き続いて手帳を活用し、学習面・生活の両面で自己管理する姿勢の育成を意識した。応用力、実践的な学力の育成をはかるため、各学期には全員に実力考査を課し、学期末には希望者対象の実力考査を行った。定期考査前後には補習を行い、学習方法を指導するとともに学力補充を行った。また、放課後「数学特進講座」を開講し、将来の理数系志望者への学力向上対策とした。時事問題への取り組みである「マイニュース」を前年度から継続して実施した。総合学習のテーマは「いのち」とし、1 学期は「生」、2 学期は「死」、3 学期は「生き方」について具体的に学び考えをまとめた。

感染状況の悪化による学級閉鎖（ストリーム閉鎖）の際には、ただちに朝終礼を含めて時間割通りのオンライン配信を行った。

GS（中 1、中 2）は”Know the world, Embrace the unknown”を学年目標とし、文字通りグローバルな教育アプローチを行った。英語力については、毎日のオンライン英会話授業により英語コミュニケーション力を育成し、2 学年合同で行う「朝の音読」では時事ニュースや様々なジャンルの小説、演劇を題材に音読や「静読」により日本語の表現力育成を図った。探究授業「GL 探究」では、各学年の発達段階に応じて ICT スキルの習得とともに幅広い分野の知識を習得させた。論理力や主体性、協働する力の育成を図り、教科横断テーマを意識して指導した。中 1 では、日常の疑問点、SDG s 学習、国際社会の理解などを通じて多様な観点に立つ論理的思考力の育成を図った。中 2 では SDG s 学習をさらに深めたほか、「出生前診断」など社会問題についても取り組んだ。また、各学期末に保護者を対象に各自がプレゼンする機会を持った

中学 3 年の学年目標は聖書の一節「あなたの心を論しの言葉に 耳を知識の言葉に傾けよ（箴言 23:12）」とし、中学校入学以来の学習、生活両面の指導に一貫性を持たせた。手帳による自

己管理、生活習慣の3点固定、また、授業時間を大切にする指導を継続した。定期考査の成績不振者については考査前後に準備講座、事後補習を実施し、3学期には中学段階の基礎学力を総点検するため、「基礎学力判定試験」に取り組んだ。総合学習のテーマは「平和」「進路学習」とした。「平和」分野では、1学期に難民支援の活動や被爆者講演会などにより知識を深めた。2学期には世界の戦争、紛争事案についてのポスターセッションの取り組み、3学期には1年間の各自の取り組みを文章化し、クラス毎に冊子化した。「進路」分野については、高校進学後の学習スタイルや文系と理系の違い、適性などについて学習した。

④ 高校各学年の取り組み

高1の学年目標は、「自他を大切に」とし、他者への配慮とともに今後の進路実現に向け自ら努力を重ねる姿勢を持つことを重視した。一人一台のICTデバイス導入により学習面の取り組みが拡充し、朝礼前の「朝の学習」では、各自がタブレットでニュースやNHKラジオ講座を視聴した。進学補習、実力考査の振り返り補習のほか、理科実験教室や星空観察合宿などを実施し、学習意欲の喚起をはかった。総合的な探究のテーマは「進路・生き方」とした。1学期には、進路について幅広く知識を得るため学問研究や適性、学部学科選択の仕方などについて学習した。2学期は進路シミュレーションや志望大学の調査、「生き方」を題材とした講演会や映画鑑賞を行い、3学期はそれらをまとめる作業を行った。

高2は「人はそれぞれの歌を持つ」「星に届かないことは恥ずかしいことではないが、手を伸ばす星を持たないことは恥ずかしいことだ。」を目標の言葉とした。ICTデバイス所持の2年目となり使用スキルが定着し、学習面、生活の両面でICT活用が効果的に行われた。3学期には感染状況が悪化したため学級閉鎖、学年閉鎖が続いたが、リアルタイムのオンライン授業の実施により学びを継続した。総合的な探究のテーマは「生き方・進路」「東北(震災・今考えること)」とした。大学進学だけでなく、自分の生き方そのものを考える機会とし、学外から多様な分野の講師を招いて講演会を企画した。テーマは、セクシャルマイノリティの僧侶、ユニークフェイスの活動家、フードバンク活動家などの多岐にわたった。また、東日本大震災と地元で発生した阪神大震災を関連付けて、大災害により顕在化した様々な社会問題についても考えた。

高3の学年目標は「門を叩け、さらば開かれん。“Knock, and it shall be opened unto you.”」とした。平日と長期休暇中の進学補習や校内予備校の実施、各種検定受験により、進路実現を図った。全員に実力考査を課し、希望者には追加受験日(数・理・社)を設定した。また、大学入学共通テスト模試、記述式模試、小論文模試を実施した。2学期以降、学校推薦型選抜(指定校推薦)により進路が決定した生徒については、課題レポートを課した。3学期には希望者が環境啓発活動Blue Earth Projectに取り組んだ(後述)。

⑤ 式典・学校行事、各学年行事

入学式は中学・高校合同の式典とした。感染症対策として入学生と保護者のみの参式とし、簡略化して開催した。卒業式は、中学卒業式、高校卒業式をそれぞれ簡略化して開催した。いずれも卒業生と保護者のみの参式とした。始業式、終業式はいずれも中学、高校を別に開催した。各式典では感染対策により聖歌、校歌斉唱は行わなかった。

バザーを11月に予定していたが、従来の食品販売の模擬店を主とする形態を取りやめ、各学年、各クラス単位でボランティア活動を行う「奉仕活動の日“SHOIN School Campaign”」に変更した。学校周辺の地域清掃活動(中1DS)、米ぬかを利用する環境啓発活動の取り組み(中学GS)、医療従事者へのメッセージ作成(中2DS)、SDGsアピールのポスター制作(中3)、古着

回収による国際貢献活動（高1）、フードバンクの活動支援（高2）を事前活動も含めて行った。

「奉仕活動の日」プログラムは、感染症対策から企画された代替行事だが、事後も高1学年では、SDGワークショップ（カードゲームを使ったSDGs学習）を実施したり、その後他の社会貢献活動を企画立案したりするなどの広がりを見せた。

宿泊行事では、中1DS山のキャンプ（ハチ高原）は感染第5波の影響により、予定していた卒業生主体のリーダーキャンプの形態を取りやめ、期間も1泊2日に短縮した。コロナ禍の初めての宿泊行事であったため、生徒による配膳（食事当番）をやめ、個食形式の食事提供とするなど感染防止策を徹底して実施した。中3修学旅行（沖縄本島方面）、高2修学旅行（東北方面）は2学期当初の感染拡大状況により中止し、代替旅行（中3京都方面、高2神鍋高原スキー場）を3学期に計画した。中3は、京都市内で世界遺産嵐山天龍寺、清水寺参拝、人力車体験、各国留学生（アジア、アフリカ圏など）との交流市内散策、ハンディークラフト製作など、単に古都観光に留まらない研修旅行を実施した。高2代替旅行は、実施1週間以降に感染症による学級閉鎖、学年閉鎖のため、中止した。

秋の校外学習は、高2以下の全学年で以下のコースで実施した。

- 中1DS 立杭焼と丹波篠山
- 中1GS 国立民族学博物館とエキスポシティ（感染症対策の研修）
- 中2DS 京都鉄道博物館、京都水族館
- 中2GS 須磨水族館、総合運動公園
- 中3 海遊館と大阪湾クルーズ
- 高1 奈良公園
- 高2 京都嵐山散策

文化祭は近隣地域の感染症拡大により日程および開催形態を直前に変更し、4月末に開催した。舞台演技、教室展示ともに生徒のみの観覧とし、保護者や家族にはオンラインで映像を配信したが、音源著作権の問題により配信には制限が大きかった。なお、GW中日に予定していた春の遠足は中止した。体育祭は、午前の部（中学）、午後の部（高校）の2部制とし、保護者参観も認めて開催した。球技大会は各学期末に企画した。1学期は雨天のため中止したが、2学期、3学期は2学年ごとに各種目競技を行った。

⑥ 特色ある英語教育

中学各学年、ストリームにフルタイム勤務の英語ネイティブ教員を配置し、授業だけでなく朝終礼、学校行事などでも英語に触れる機会を設けた。ストリーム制ではない中3には「英語特別クラス」1学級が設置され、英語ネイティブ教員が副担任となった。中学の英語オーラル授業では、クラスを3分割し10名以下の少人数で実施した。学校特設科目「ICT English」では、タブレットを利用したスピーキング練習やオンライン英会話を実施した。中高全学年で英検受験を薦め、学校を英検本会場とした。特に第3回英検（1月実施）では2級未取得者の受験を義務付けた。課外の「英検対策講座」（準1級、2級）を開講し、希望者が学年の枠組みを越えて受講した。英語ネイティブ講師やスタッフが常駐する「English Room」は感染状況が改善した時期の放課後のみ開室した。高校生対象の聖ミカエル国際学校「土曜学校スクールアシスタント」プログラム、中学GSの土曜日提携授業「Shoin Global Saturday English Class」により、英語イマージョンも実施した。中学生「英語オーラルレシテーションコンテスト」では、DS生徒の英語スピーチ、レシテーション（暗唱）、GS生徒のパフォーマンスがあり、ストリームと学年の違いを越えて英語の学習意欲を喚起した。

⑦ 国際交流プログラム、校外英語研修など

パンデミックにより、前年度に引き続いてニュージーランドの姉妹校 St.Peter's School との春期交換留学、夏の短期語学研修、韓国の姉妹校信明高校、聖明女子中学校への異文化体験研修、フィリピンのセブ島研修を中止した。代替プログラムとして、夏休み中に韓国信明高校生徒とのオンライン交流（中3、高1希望者）、校内英語研修「One Day SHOIN English Camp」（中3～高1希望者）、冬休み中の2泊3日の英語キャンプ「YOLO English Camp」（中2～高2希望者）を実施した。10月に実施予定であった中2DS、GS全生徒の英語イメージ研修「British Hills 研修」（福島県天栄村）は、感染拡大により3学期に延期したが、現地施設スタッフのクラスター発生により中止した。中学GSは、聖ミカエル国際学校「Summer Camp」（計10日間）に参加した。

⑧ 補習および課外講座など

上述の英検対策講座のほかには、外部講師が担当する「放課後課外講座」として、校内予備校（高2、高3生対象「現代文」「英語」）を開講した。教員が担当する補習は、平日の補習も含め学年別に開講した。

⑨ 探究活動、PBL(プロジェクト型学習)の取り組み

高校では、各学年で Blue Earth Project の取り組みを行った。学年全体へのオリエンテーションのほか、希望者を募り、「女子高生が社会を変える」をスローガンに環境問題を啓発するPBL(プロジェクト型学習)活動を行った。高1生徒は「気候変動」をテーマに「クールチョイス」（温暖化を抑えるためのアクション）につながるエコブース企画を考え、全国の Blue Earth Project 参加校の生徒（沖縄・箱根・富山・東京・川崎・札幌）全32チーム173名とオンラインで活動内容を相互にプレゼンをし合った。高2生徒は、「海洋プラスチックによる生物多様性の危機」をテーマとして取り組んだ。前年度高3の同テーマの下での活動を引き継ぎ、神戸どうぶつ王国で対面式の啓発イベントを開催した。

高3生徒は3学期に「海洋プラスチックごみ削減」をテーマに活動した、須磨海岸でのビーチクリーン活動、阪急西宮ガーデンズの飲食店にマイボトルへの給水の協力を依頼する「エコ給水キャンペーン」に取り組んだ。啓発イベントは、生徒、保護者対象に校内講堂でのステージ活動とブースでの啓発活動を行った。校外での啓発活動の機会が少なかったが、オンラインを活用した活動もあり、参加した生徒は多くの学びや気づきを得た。

PBLによる取り組みは、今後のバザー代替行事「奉仕活動の日」の企画、運営にも活用する方向で準備しているほか、2022年度以降の高校新課程「言語探究」をはじめとする探究系授業の準備を行った。

⑩ 生徒支援（「生活アンケート」「特別支援教育」「教育相談」「保護者連携」）

「生活アンケート」を年間2回実施し、学級への適応感やいじめなどのトラブルに関連する生徒状況の把握に努めた。アンケート結果は生徒個人面談等に活用した。いじめ事案が発生した場合には、さらなる聞き取り作業などを行うため「いじめに関するアンケート実施」について準備し事実関係の把握や生徒ケア、問題解決を図るが、2021年度は該当案件がなかった。

特別なニーズのある生徒への支援を「特別支援教育」と位置づけて特別支援委員会を運営した。2021年度は5名（中学3名、高校2名）を対象生徒として個別指導計画を策定し、個々の特性

や状況についての情報を共有した。専門家によるソーシャルスキルトレーニング（SST）を実施する「個別指導教室」運営するとともに、認知訓練の教材を使用する「特別支援教室（芦塚教室）」を運営し、特別支援委員会の対象となる生徒以外にも広く支援を行った。

不登校生徒への支援としては、高校課程では「在宅学習単位認定制度」を導入した。

2021年度は、2学期以降、高2生徒3名を本制度の対象生徒に認定し、特別教育課程に異動して高2課程を修了し、高3に進級した。中学課程の不登校生徒については、公設、民営を問わず、校外施設での学習や活動を、校長が出席扱いと認定する制度を積極的に運用し、中2生徒2名を対象に神戸市通級指導センター「くすのき教室」その他民間施設など5施設での学習、体験を出席扱いとした。

「カウンセリングカンファレンス」は、特別支援にかかるケースカンファレンスとして4回開催し、本校スーパーバイザーの植本医師、相談室カウンセラーほか関係教員が出席した。

ピアカウンセリングとしては、高1の生徒間では「総合的な探究」の取り組みとして、「匿名の相談への回答」の取り組みを行い、悩みに対する他者の様々な助言から学び、さらに自分のアドバイスの質を向上させようと努める姿勢が見られた。

保護者のピアカウンセリングの機会として「保護者おしゃべり会」を相談室カウンセラー、校長の出席のもとに運営した。

⑪ 人権教育、性教育、

人権教育の取り組みでは宗教部人権教育係が主体となり、「在留外国人の人権について」をテーマとして、2回の教職員研修および生徒対象の人権研修を行った

（教職員人権研修）

テーマ「多文化共生の視点。旧植民地出身者の国籍問題」

講師：李洙任（龍谷大学名誉教授）

（教職員人権研修）

テーマ「在日韓国朝鮮人教諭として」

講師：徐民夫教諭（松蔭中高教諭）

（生徒対象人権教育講演会）

テーマ「在日韓国朝鮮人の歴史、文化を伝える活動。大阪『猪飼野地区』猪飼野セッパラム文庫の活動」

講師：藤井幸之助（猪飼野セッパラム文庫）

性教育関連では、以下のプログラムを実施した。

（中1）神戸市思春期ヘルスケア 専門職によるデリバリー授業

テーマ「自分や他人の命の大切さ、性のありようについて」

講師：毛利多恵子先生（神戸市助産師会 助産師）

（中2）思春期ピアカウンセリング

テーマ「様々な価値観があることを知り、どのように生きたいかを考える」

講師：高田昌代先生（神戸市看護大学・NPOひょうご思春期ピアカウンセリング研究会）

（中3）神戸市思春期ヘルスケア 専門職によるデリバリー授業

テーマ「自分の体を大切にしよう（性の問題行動、避妊など）」

講師：郷原寛子先生（神戸市助産師会 助産師）

（高2）いのち語り隊による性教育講演会（DVD視聴）

テーマ「いのちと性の大切さについて（男女交際、セックス、人工妊娠中絶）」

講師：永原郁子（マナ助産院院長・一般社団法人小さないのちのドア代表）

⑫ キリスト教主義教育

中学、高校別に週1回の「朝の全校礼拝」を行った。礼拝講話は、チャプレンや宗教部担当教員だけでなく、各学年団教員も担当した。感染症拡大により聖歌は歌わず、オルガン奏楽と講話、お祈りのみで運営した。レオノラチャペルでは、「早朝礼拝」を守り、チャプレンと有志教職員および生徒が出席した。毎週金曜日昼休みには「ヌーンサービス」を行った。「お誕生日礼拝」は毎月1回行われ、誕生月の生徒、教職員に「お誕生日カード」を配布したが、図書館司書による「あなたへのお勧め図書紹介」を同封した。その他の礼拝は以下のとおり。

4月17日（土）入学感謝礼拝（神戸松蔭女子学院大学 マグダレンチャペル）

説教：日本聖公会神戸教区 小林尚明主教

出席：2021年度中学新入生、高校入学生

4月24日（土）入学感謝礼拝（神戸松蔭女子学院大学 マグダレンチャペル）

説教：日本聖公会神戸教区 小林尚明主教

出席：2020年度新入生（中2）

4月27日（月）イースター礼拝

説教：日本基督教団 神戸東部教会 古澤啓太牧師

4月7日（月）春の宗教週間 特別礼拝

説教：神戸聖ミカエル教会副牧師 長田吉史司祭

11月10日（水）秋の宗教週間特別礼拝

講話：広島女学院中高署名実行委員会 OG 大坪沙羅氏

広島女学院高校生徒2名

11月13日（土）逝去者記念礼拝（レオノラチャペル）

12月21日（火）クリスマス燭火礼拝

説教：明石聖マリア・マグダレン教会 林和広司祭

1月14日（金）阪神淡路記念礼拝（講堂）

震災記念の祈り（レオノラチャペル）

2月28日（月）卒業感謝礼拝（H3）（神戸松蔭女子学院大学 マグダレンチャペル）

その他のキリスト教主義教育の取り組みについては、児童養護施設「真生乳児院」での育児体験、被災地支援イベントを中止した。感染症の影響で販売機会が減少していた授産施設「にじ作業所」「パン工場なないろ」への支援として、校内でのパン販売の機会を増やした。オルガンレッスンは、生徒7人が受講し、朝の礼拝、各行事で奏楽奉仕を行った。機関紙「チャペルニュース」を発行するとともに、書道部員が書いた聖句を教室や廊下に掲示した。活動記録は以下のとおり。

5月29日（土）にじ作業所パン販売 *地域感染拡大により中止

6月7日（月）～12日（土）春の宗教週間

6月7日（月）～12日（土）チャリティーブックバザー（図書館）

6月10日（木）オルガンコンサート（講堂）

6月26日（土）、6月30日（水）、7月7日（水）にじ作業所パン販売

8月6日（金）広島原子爆弾犠牲者追悼礼拝（聖ミカエル大聖堂）

- 10月3日(土) にじ作業所パン販売
- 10月30日(土) にじ作業所パン販売
- 11月6日(土) キリスト教学校教育同盟「災害支援連絡会議」研修会
- 11月8日(月)～13日(土) 秋の宗教週間
- 11月8日(月)～13日(土) チャリティーブックバザー(図書館)
- 11月9日(火)～26日(金) 宗教週間クラス講話(レオノラチャペル)
- 11月9日(火)、11日(木) クリスマスグッズ作り(レオノラチャペル)
- 11月10日(水) 「平和について考える」交流会(レオノラチャペル)
- 11月17日(水)、24日(水) にじ作業所パン販売
- 12月5日(土) にじ作業所パン販売
- 12月10日(金) ピースツリーのメッセージカード記入・セッティング
- 12月11日(土) ピースツリー・核廃絶署名活動・にじ作業所パン販売
*小学生対象「クリスマスの集い」にて
- 1月29日(土) にじ作業所パン販売 *地域感染拡大により中止
- 2月12日(土) にじ作業所パン販売 *地域感染拡大により中止
- 3月11日(金) 阪神淡路震災記念碑めぐり

⑬ 生徒会活動、課外活動

生徒会活動では、文化、体育、特別、美化、保健の各委員会活動を行った。生徒会執行部の取り組みとしては、水質浄化に役立てるため使い捨てカイロのリサイクル運動に取り組み、合計2700個を回収した。生徒会役員選挙と生徒総会は、感染症対策としてリモートで行った。生徒アSEMBリーでは、クラブ活動の表彰を行った。

課外活動として活動中のクラブは以下のとおり。

○運動部6部

アーチェリー部、水泳部、ソフトテニス部、テニス部、バスケットボール部、バドミントン部

○文化部17部

演劇部、華道部、コーラス部、茶道部、写真部、食物部、書道部、箏曲部、バレエ研究部、ハンドベル部、BAND(軽音楽)部、BAND(フォークソング)部、美術部、放送部、マンガ研究部、マンドリン部、モダンダンス部

○同好会6部

E S S、少林寺拳法、ソフトボール、卓球、バイオリンアンサンブル、バレーボール

全国大会に出場したクラブは以下のとおり。

○アーチェリー部(令和3年度全国高等学校総合体育大会、第40回全国高等学校選抜大会)

○書道部(第37回成田山全国競書大会)

○放送部(第38回NHK杯全国中学校放送コンテスト)

全国大会(および同等の大会など)に出場した個人活動は以下のとおり。

○アーティスティックスイミング(第97回日本選手権水泳競技大会、日本アーティスティックスイミングチャレンジカップ2021、第44回全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会)

- エッセイ (JICA 国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト 2021)
- ゴルフ (全日本中学生ゴルフ選手権大会、全日本中学生ゴルフ選手権春季大会、つるやカップ)
- 写真 (出光第 17 回環境フォト・コンテスト)
- デザイン (手帳の匠コンテスト 2021)
- 軟式野球 (第 6 回全日本中学女子軟式野球大会 SP トーナメント代替大会)
- バレエ (京都バレエコンクール P.B.K2021 Competition in summer)
- ピアノ (第 12 回日本バッハコンクール全国大会)

⑭ 安全教育、防災教育

安全教育として、自転車運転に関する安全講習会を中学、高校別に実施し、啓発映像「知って欲しい～自転車加害事故の現実」により意識向上を図った。火災や地震の発生を想定した避難訓練を 3 回実施した。教職員についても、災害発生に備えて火災報知器講習会、応急処置講習会を開催し研修を行うとともに、大災害発生に備え、警報発令・緊急時及び大災害発生時の教職員対応について確認した。学校防災委員会は、生徒携行用の「大災害対応マニュアル」を配布し、学校 HP の「緊急時情報入力フォーム」の利用についても周知を図った。また、非常食、飲料水など緊急備蓄品を整備した。学校 HP には、学校からの「緊急連絡」バナー、「新型コロナウイルス関連」バナーを新設した。

⑮ 学校 IT 化、ICT 教育推進、SNS の活用

生徒一人一台の iPad などタブレット保有 3 ヶ年計画の 2 年目にあたり、4 学年が個人のタブレットを所持した。感染症による学級閉鎖等の際の授業映像のリアルタイムオンライン配信も Teams または Zoom により実施した。生徒、保護者への学校配布文書等はすべて Classi によるデジタル方式とした。生徒の欠席、遅刻連絡もこのシステムでの運用を開始した。成績管理、生徒情報などを一元管理する校務システムを本格的に導入し、教学面の管理事務作業を合理化した。

マルチメディア委員会を新設し、校内の ICT 環境整備、デバイスやアカウントの管理など情報機器の管理運営の主体とした。各種のオンライン配信 (文化祭や入試説明会、PTA 集会、授業参観、中 1DS 夏のキャンプ説明会などのオンライン対応、学級閉鎖の際の授業映像配信など) をバックアップした。なお、学校 HP をリニューアルするとともに、SNS による情報発信を開始した。

⑯ 2021 年度入学生数、卒業生数

2021 年度中学校新入生数 70 名。

高校入学生数 22 名 (併設中学からの内部進学を除く)。

2021 年度中学校卒業生卒業生数 99 名。

高校卒業生数 139 名。

(4) 入試関係

生徒募集対策として、新たに WEB 検索連動広告、テレビ番組出演 (「有名私立中学受験ナビ」サンテレビ) のほか、募集関連イベントの情報発信を HP や公式 SNS アカウントの運用により強化した。また、入試関連「メルマガ」をアドレス登録している受験生保護者に配信した。

① 入試説明会の実施、参加状況は次のとおり

4 月 4 日 (日) 新聞社主催 私立中学受験フェス (グランフロント大阪)

- 4月11日(日) 新聞社主催 兵庫県私立中学校・高等学校進学相談会(神戸国際会館)
- 4月24日(土) GS説明会(校内)
- 5月8日(土) オンライン個別相談(校内から)
- 5月8日(土) Singa Life 海外オンライン説明会(校内から)
- 5月29日(土) オンライン個別相談(校内から)
- 6月12日(土) 高校授業見学会(校内)
- 6月13日(日) 中学入試結果報告会(校内)
- 6月19日(土) 中学授業見学会(校内)
- 6月23日(水) 創学アカデミー オンライン説明会
- 6月26日(土) オンライン個別相談(校内)
- 7月17日(土) 女子教育セッション(神戸三宮 REI ホテル)
- 7月25日(日) 播磨リビング私立中高進学相談会(加古川プ ラザホテル)
- 7月24日(土) 私立中学高校進学サポートフェア(西宮フレンテホール)
- 8月1日(日) 県私立小・中・高等学校説明会 西宮会場(ホテルヒューイット甲子園)
- 8月7日(土) 8日(日) 学校進路相談会(大丸須磨店)
- 8月21日(土) 22日(日) 県私立小・中・高等学校説明会 神戸会場
(神戸サンボーホール)
- 8月28日(土) オープンスクール・オープンハイスクール(校内)
- 9月4日(土) 兵庫県私立中学高等学校展(スペースアルファ三宮)
- 9月4日(土) 明光義塾 オンライン進学相談会(校内から)
- 9月5日(日) 朋友ヴィッツ 私立中高説明会(武庫之荘トレピエ)
- 9月8日(水) 塾対象説明会(校内)
- 9月11日(土) 第1回 高校説明会(校内)
- 9月11日(土) 第1回 課題図書プレゼン入試説明会(校内)
- 9月18日(土) 第1回 中学校説明会(校内)
- 9月20日(月祝) 新聞社主催 私立中高進学相談会(ハービスホール)
- 9月29日(水) 兵庫県私立中学校・高等学校進学相談会(神戸国際会館)
- 10月2日(土) 第2回 高校説明会(校内)
- 10月3日(日) 明石説明会(ウィズあかし)
- 10月3日(日) 出版社主催 学校進路相談会(イオンモール神戸北)
- 10月6日(水) 神戸市 私立高校入試合同説明会(神戸市総合教育センター)
- 10月8日(金) 加印地区高校入試合同説明会(高砂市文化保健センター)
- 10月10日(日) 第2回 中学校説明会(校内)
- 10月16日(土) 三田説明会(三田商工会館)
- 10月17日(日) 新聞社主催 私立中学高校進学相談会(西宮フレンテホール)
- 10月17日(日) 出版社主催 学校進路相談会(イオンモール明石)
- 10月24日(日) 宝塚説明会(宝塚ソリオホール)
- 10月29日(金) プール学院・松蔭 塚口合同説明会(塚口さんさんタウン)
- 10月30日(土) 第3回 中学校説明会(校内)
- 10月31日(日) 阪神西宮説明会(西宮市民会館)
- 11月7日(日) 西神南説明会(西神南セリオホール)
- 11月14日(日) プレテスト(校内)

- 1 1月27日(土) プレテスト 個別アドバイス会(校内)
- 1 2月 4日(土) 第3回 高校説明会(校内)
- 1 2月 4日(土) 第2回 課題図書プレゼン入試説明会(校内)
- 1 2月11日(土) クリスマスの集い(校内)
- 1 2月11日(土) 第1回 英語面接練習会(校内)
- 1 2月12日(日) 第4回 高校説明会(校内)
- 1 2月25日(土) 個別相談会(校内)
- 1 2月25日(土) 第2回 英語面接練習会(校内)
- 1 2月25日(土) 課題図書プレゼン練習会(校内)
- 1 月15日(土) 午前:A方式入試、午後:英I入試、課題図書プレゼン入試
- 1 月16日(日) 午後:B方式入試
- 1 月17日(月) 午前:英II入試
- 1 月22日(土) 合格者登校日(制服採寸・学用品購入等)
- 2 月10日(木) 高校入試
- 2 月19日(土) 高校入学予定者 登校日
- 3 月22日(火) 神戸市東地区女子中高一貫校合同説明会
(神戸海星・甲南女子・親和・松蔭)(東灘区文化センター)

② 2022年度中学入試結果

	募集人員		志願者	受験者	合格者	入学者**
A方式入試	DS 約110	*GS 約30	63	60	58	DS54
英語I入試			DS 9 GS21	DS 9 GS21	DS 8 GS20	DS 7 GS16
課題図書 プレゼン入試	DS 若干名		6	6	5	DS 5
B方式入試	DS 約20	*GS 約30	国語52 算数31	国語25 算数17	国語25 算数15	DS 6
英語II入試			DS 6 GS13	DS 4 GS 1	DS 4 GS 1	DS 1 GS 0
合計	約160		201	143	136	DS61 GS17

*GS 募集人員は、英語I入試・英語II入試を合わせて約30名

**入学予定者は、各入試方式での入学者数を記載しているため、重複を含む。

GS17には、「帰国生のためのオンライン入試」での合格1名を含む。

③ 2022年度高校専願入試結果

入試方式	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
専願・推薦入試	約40	21	21	21	21
併願		4	4	4	0
合計		25	25	25	21

※「特進クラス」希望13(専9、併4)。合格10(専6、併4)。

(5) 進路関係

① 高3の進路状況全般（過去3カ年推移）

	2022年度入試 (2021年度高3)	2021年度入試	2020年度入試
神戸松蔭女子学院大学（特薦）	40	44	37
外部大学	80	76	71
外部短大	4	5	2
専門学校・留学	12	3	4
その他	3	3	6
卒業生数	139	131	120

② 2022年度入試での外部大学進学者数一覧

学校	人数	学校	人数
大阪教育大学	1	東京音楽大学	1
帯広畜産大学	1	同志社女子大学	1
神戸市外国語大学	1	奈良大学	1
大阪芸術大学	1	梅花女子大学	3
大阪歯科大学	1	姫路大学	1
大阪成蹊大学	2	姫路独協大学	1
大手前大学	1	兵庫医科大学	1
関西外国語大学	2	武庫川女子大学	1
関西看護医療大学	2	明治学院大学	1
関西国際大学	1	大和大学	3
関西大学	11	立教大学	5
関西学院大学	8	関西外国語大学短期大学部	3
京都芸術大学	2	聖和短期大学	1
京都光華女子大学	1	ECCコンピュータ専門学校	1
京都女子大学	1	大阪調理製菓専門学校	1
京都精華大学	1	大阪ビューティーアート専門学校	1
甲南女子大学	5	大阪ベルェベル美容専門学校	1
甲南大学	7	関西ビューティープロ専門画工	1
神戸学院大学	3	京都バレエ専門学校	1
神戸芸術工科大学	1	神戸電子専門学校	1
神戸女学院大学	6	神戸ブレイメン動物専門学校	1
神戸常盤大学	1	神戸ベルェベル美容専門学校	2
神戸薬科大学	1	パンタクリエイターアカデミー	1
		兵庫県歯科医師会付属兵庫歯科衛生士学院	1

(6) 施設・設備関係

① 校内設備の整備

電気室受電設備の更新計画の初年度工事として、継電器・開閉器類の更新工事を実施した。
2022年度以降、変圧器類、キュービクルの更新工事を順次実施する予定。

② 校内の衛生環境の改善を図るための空調設備の整備

体育館空調設備工事並びに当該工事に伴い必要となる内部の改修工事を行った。同時に当該空調設備に換気機能を備え、感染症予防など衛生環境の改善を図った。

(7) 中期計画及び事業計画の進捗・達成状況

2021年度事業計画の概要は、新学習指導要領への移行準備と探究学習の本格導入、ICT教育の展開、中学ストリーム制の完成と高校新コース制の準備であった。また、「英語の松蔭」ブランディングも事業のひとつであった。中期計画としては、学校教育活動全般の検証と改善（入試・生徒募集、学力向上、進路）を中高中期ビジョンとして掲げるとともに、優秀な教員の確保、財務状況の改善を挙げた。

事業計画の進捗・達成状況は、上述のとおり概ね順調にすすめられた。中学ストリーム制完成の最終年度を迎える準備を行い、高校学習指導要領改訂に伴う新課程、その後の高校新コース制導入準備と学内調整を行った。ICT整備と運用も計画通り実施した。また、高校募集対策を強化し、高校募集数の増員に向けての取り組みを行った。「英語の松蔭」ブランディングについては、インターナショナルスクールとの連携、オンライン英会話授業の本格的運用により効果があったといえる。

中期ビジョンについては、何よりも財務構造の改善が喫緊の課題であり、直接的には在籍生徒数の増加、入学生数の確保を目指す必要がある。よって生徒募集に影響を与える施策として、高校卒業後の進路保障や、併設大だけでなく他大学とも教育連携関係の構築を図る取り組みを行った。具体的には、これまで各大学との連携や交渉については進路指導部が担当していたが、新たに校長直属の「高大連携室」を設置し、難関私大との教育連携協定や、医療・看護系指定校推薦枠の交渉の際の高校側窓口とした。また、高校担当者を中心とする「進路・進学指導研究会」を開催し、個々の生徒の学力データや志望校について分析した。今後は学校全体として生徒の大学進学をサポートする体制の構築を校長のリーダーシップのもと図る予定である。

3. 大学

(1) 執行部関係

学 長	待 田 昌 二
副 学 長	坂 本 真佐哉
副 学 長	片 平 理 子
学 生 部 長	中 村 博 文
教 務 部 長	鳥 居 さくら
図 書 館 長	松 田 謙次郎
入 試 部 長	長谷川 誠
宗 教 主 事	山 内 啓 子
文 学 部 長	打 田 素 之
人 間 科 学 部 長	竹 中 康 之
教 育 学 部 長	谷 川 弘 治
事 務 局 長	上 野 智 子

(2) 教授会開催状況

教授会は専任講師以上の専任教員で構成し、文学部、人間科学部、教育学部の3学部合同で開催している。原則第1木曜日の開催としているが、審議事項や学事日程に応じて別日程の開催とすることもあり、年間の開催日程を学内に周知している。2021年度は13回開催し、次の事項を審議した。

- ① 学生の入学、卒業及び課程の修了
- ② 学位の授与
- ③ 入学試験、編入学試験の合否判定
- ④ 科目等履修生の受入及び単位認定
- ⑤ 単位認定（入学前既修得単位・留学・語学研修・単位互換事業）
- ⑥ 学則改正
- ⑦ 教員の長期研修

(3) 教学マネジメント会議

教学マネジメント会議は、教学に関わる中長期計画の策定や学部・大学院全体の教育課程の編成・実施について審議している。2021年度は4回会議を開催し、2022年度学部・学科、研究科・専攻及び課程のカリキュラムについて、ゼミのクラス数設定の基準について、2022年度遠隔指定授業について審議を行った。また、中期ビジョン実施状況確認表とカリキュラムとの整合性、教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラムマップについて点検を行った。

(4) 教学関係委員会開催状況

学長が主宰する委員会として独立委員会を、教育行政部門が所管する委員会として専門委員会をおいている。2021年度の各委員会開催状況は次のとおり。

独立委員会	
教学委員会	50回
入試総務委員会	30回
国際交流委員会	7回

自己点検・評価運営委員会	2回
広報委員会	3回
個人情報保護委員会	2回
全学共通教育委員会	1回
教職教育委員会	2回
I R室運営委員会	3回
専門委員会	
学生部委員会	2回
人事委員会	18回
教務委員会	11回
図書館運営委員会	7回
学術研究委員会	2回
公開講座運営委員会	1回
キリスト教センター委員会	3回
FD委員会	9回
ハラスメント防止対策委員会	5回
環境対策委員会	0回
ネットワーク委員会	2回
研究倫理委員会	16回

(5) 教学関係

(ア) 教育課程（カリキュラム）

- ・ 2022年度カリキュラム、開講クラス数について審議を行った。変更となる科目については、カリキュラム編成、受講者数の資料に基づき検討を行ない、適切であることを確認した。
- ・ 様々な社会変動に対応できる力の養成を目標に 2019年度から教育改革プロジェクトで検討してきた全学共通教育の系列の改編を行い、データ理解と統計を学ぶ科目系列を新設した。
- ・ 学科のカリキュラムを学修しながら、語学や心理学などの領域を学ぶことができる副専攻を改編し、「学科共通プログラム」を開設した。
- ・ ゼミのクラス数設定の基準について、学生指導の上で適切となる履修者数を勘案し、開講クラス数の上限の目安を設定した。
- ・ 学習評価の基礎、ルーブリックを用いた評価についての研修会を実施し、「基礎演習」などの初年次教育科目や「卒業研究」、オムニバス科目などのルーブリックを作成した。

(イ) ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

- ・ 教学マネジメント会議において、教育目標／ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに照らし、各教育課程のカリキュラムが編成されていることを確認した。
- ・ ディプロマ・ポリシーと科目の位置づけ（カリキュラムマップ）、シラバスに記載している到達目標との対応関係について、各学科及びセンターで点検を行った。

(ウ) 教育への ICT の導入

- ・ 遠隔授業の技術の維持・進展をはかり、教育の改革・改善を推進するため ICT を取り入れた「遠隔指定授業」を設定した。
- ・ 2020年から取り組んできた「教育への ICT の導入」を更に充実し、進展させるため、2022年度入学生より自身のパソコンを携帯し学ぶ BYOD (Bring Your Own Device) へ移行した。

(エ) 卒業時アンケート

大学4年間の教育課程を通して、学生の学修成果、大学教育の教育成果を測るために、卒業生に対して「卒業時アンケート」を実施した。回収率は96.8%であった。

(フ) 卒業生数

2021（令和3）年9月10日に、9月卒業の認定会議を開催し、文学部7名（英語学科4名、日本語日本文化学科3名）と人間科学部5名（心理学科1名、生活学科都市生活専攻1名、生活学科2名、子ども発達学科1名）の計12名の卒業を認定し、学士の学位授与を承認した。

2022（令和4）年2月28日に卒業認定会議を開催し、文学部3学科171名と人間科学部6学科2専修330名の計501名の卒業を認定し、学士の学位授与を承認した。

(ク) 標準修業年限で卒業した学生の割合等

2018年度入学生の修業年限(4年)での卒業生数、卒業率、留年者数、中途退学者数等は次表のとおりである。

学部	入学者数 (2018年)	修業年限内 卒業生数	卒業率	留年 者数	留年率	退学者数	退学率
文学部	196人	162人	82.7%	12人	6.1%	22人	11.2%
人間科学 部	368人	327人	88.9%	20人	5.4%	21人	5.7%
大学計	564人	489人	86.7%	32人	5.7%	43人	7.6%

(6) 大学院教育

教育の充実に努め、教育研究の進展と人材育成の進展を目指し、研究倫理教育と研究不正防止に取り組んだ。倫理教育は、各専攻・指導教員が大学院の授業や個別指導を通して実施した。人を対象とする研究については、研究計画の提出を求め、2021（令和3）年4月16日制定の『人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針』を参照し、審査、判定を行った。

大学院委員会は、学長、研究科長、副学長、教務部長、学生部長、入試部長および大学院科目担当の専任教員で構成し、定例として月1回開催としている。2021年度は11回開催し、次の事項を審議した。

- ① 2022年度教育課程に関する事項
- ② 2021年度修了認定、学位審査に関する事項
- ③ 大学院入試に関する事項
- ④ 予算の編成等に関する事項
- ⑤ 規程改正
- ⑥ 大学院FD活動に関する事項

2022（令和4）年3月3日に学位授与判定の会議を開催し、修士課程国語国文学専攻2名、心理学専攻臨床心理学コース8名の最終試験を合格とし、修士（国語国文学）2名、修士（心理学）8名の学位授与を承認した。

(7) 学生生活関係

① 課外活動

クラブ・同好会一覧

【運動部（8）】

ソフトテニス部、テニス部、卓球部、なぎなた部、ラクロス部、アーチェリー部、剣道部、合気道部

【文化部（7）】

茶道部、書道部、箏曲部、美術・漫画研究会、文藝部、演劇部、放送部

【同好会（2）】

写真同好会、軽音同好会

2021年度におけるクラブ活動の主な成績は次のとおりである。

【ソフトテニス部】

関西学生ソフトテニスシングルス選手権	シングルス	優勝 3位
神戸市民体育大会ソフトテニス競技	ダブルス	優勝 2位 3位
兵庫学生ソフトテニス優勝大会	ダブルス	優勝 2位 3位
近畿ソフトテニス選手権大会	ダブルス	ベスト8
姫路城OPENソフトテニス大会	ダブルス	ベスト8
兵庫県選手権	ダブルス	3位 ベスト8
兵庫学生ソフトテニス選手権大会	ダブルス	優勝 2位
関西学生ソフトテニス新人大会	ダブルス	2位 3位 ベスト8
関西学生ソフトテニスリーグ戦代替大会	団体	優勝（5勝0敗）

【テニス部】

関西学生春季テニストーナメント	シングルス ダブルス	ベスト32 ベスト32
関西学生地域テニストーナメント	シングルス ダブルス	ベスト8 優勝
関西学生新進テニストーナメント	シングルス ダブルス	ベスト16 ベスト32

【なぎなた部】

関西学生なぎなた選手権大会	演技競技 個人試合（初段の部） （二・三段の部）	3位 2位 2位 3位
全日本学生なぎなた選手権大会	演技競技 個人試合	3位 2位
関西学生なぎなた新人戦大会	演技競技（有段）	2位 3位

	リズムなぎなた 個人試合（有段）	優良賞 2位 3位
神戸市総合スポーツ大会	演技の部（有段）	優勝 2位 3位
	団体の部（有段）	優勝 2位 3位
	個人の部（有段）	優勝 2位 3位

【卓球部】

関西学生卓球新人大会	団体 シングルス	3位 3位
日本卓球リーグ（前期）千葉大会	2部団体	優勝（7勝0敗）
全日本大学卓球総合選手権大会（団体の部）	団体	2位
関西学生卓球選手権大会	シングルス	3位 ベスト8
全日本卓球選手権（団体の部）	団体	3位
日本卓球リーグ（後期）埼玉大会	1部団体	5位（3勝4敗）
オール西日本学生卓球選手権大会	シングルス	優勝 3位

②学生生活

(7) 学内奨学金について

2021年度の学内奨学金の種類と奨学生人数は以下の通りである。

奨学金名	人数	奨学金名	人数
・入学生特別奨学金① 4年目継続	6	・夢・未来サポート特待生奨学金 50 3年目継続	13
・入学生特別奨学金② 4年目継続	1	・夢・未来サポートチャレンジ 50 3年目継続	1
・入学生特別奨学金③ 4年目継続	2	・推薦選考スポーツ優秀者奨学金	26
・姉妹等奨学金	22	・外国人留学生給付奨学金	1
・松蔭ファミリー入学金優遇制度	21	・社会人特別編入学奨学金	8
・松蔭高校生特別推薦選考入学者奨学金	17	・指定校特待生制度	180
・夢・未来サポート特待生奨学金 50	9	・新型コロナウイルス感染症対策奨学金(AO)	47
・夢・未来サポートチャレンジ 50	1	・新型コロナウイルス感染症対策奨学金(推薦)	27
・夢・未来サポート特待生奨学金 50 2年目継続	3	・大学院	1
・夢・未来サポート特待生奨学金 100 2年目継続	1	・本学関係子女	2
・夢・未来サポートチャレンジ 50 2年目継続	1		

(イ) 学外奨学金について

A. 学外貸与奨学金について

2021年度の学外貸与奨学金の種類と奨学生人数は以下の通りである。

大学		大学院	
奨学金名	人数	奨学金名	人数
日本学生支援機構 第一種	350	日本学生支援機構 第1種	1
日本学生支援機構 第二種	547		
その他 (3件)	4		

B. 学外給付奨学金について

2021年度の学外給付奨学金の種類と奨学生人数は以下の通りである。

奨学金名	人数
日本学生支援機構 (旧制度)	3
日本学生支援機構 (修学支援新制度)	236
その他 (4件)	7

(ウ) 大学祭 (松蔭祭)

2021年度は11月20日(土)と21日(日)にオンライン開催を実施した。テーマは、楽しい気持ちをシェアして欲しいという想いを込めて「give laughter, give love」とした。お笑いライブとの連動企画も実施した。視聴回数は、お笑いライブで1,500回を、学内参加団体で各200回を超えた。

[参加団体]

学外：お笑いライブ (5組)

学内：ファッション・ハウジングデザイン学科によるファッションショー 2本

クラブ・同好会 7本

(美術・漫画研究部 3本、演劇部と美術漫画研究部コラボ 1本、演劇部 1本、書道部 1本)

学科・ゼミ有志 3本

(ハウジングデザイン学科インテリア分野、都市生活学科花田ゼミ、心理学科ピア)

(エ) ハラスメント対策

1999年にセクシュアル・ハラスメント防止のためのガイドラインを定め、さらに相談体制や調査機関を整備し、人権が尊重されるキャンパスをめざしている。今年度も「ハラスメントをおこさないために」と題したパンフレットを全教職員及び全学生に配布した。

(オ) 学生支援室

学生支援室では、身体障害、発達障害、精神障害、慢性疾患あるいは心理的問題がある学生の修学支援や不登校の学生の相談対応をしている。社会福祉士、精神保健福祉士の資格を持つ支援員が在室し、2021年度は約100名の障害や病気のある学生を支援した。また新型コロナウイルス感染症関連の相談窓口として保健室や教務課等と連携し、学生の学びの継続に配慮した支援を実施した。

(カ) 学生相談室

学生相談室には、公認心理師および臨床心理士の資格をもつカウンセラーが常駐し、学生の相談に応じている。また学生だけではなく、保護者・教職員からの学生についての相談(コンサルテーション)にも対応している。その他、新入生を対象とした健康調査 UPI を実施し、ハイリスク学生に手紙と面接にてフォローアップを行なっている。また学生・保護者に向けて

*コロナ罹患者、濃厚接触者へ問診（学生及び教職員）、施設消毒、報告（manaba、サイボウズ）

(ク) 学生寮

2020 年度前期は新型コロナウイルスの影響で遠隔授業中心であったことから寮生の殆どが帰省していたため消防訓練と本学保健室看護師による健康チェックを実施できなかったが、2021 年度は 6 月 12 日に実施し寮生の殆どが出席した。

(ケ) 松蔭 CP（チャレンジプログラム）について

これまでの松蔭 GP を、より多くの学生が気軽に参加できるものにする目的で 2020 年度から「松蔭 CP（チャレンジプログラム）」としてリニューアルする予定であったが、2021 年度も新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかった。

(コ) キャンパスにおける安心・安全対策

通学バス、タクシーによる登校時の安全対策として、警備員による正門付近の交通整理作業、学内巡回警備をはじめ防犯カメラによる防犯体制を敷き、学生の安全・安心に配慮した。また 2021 年度も 2020 年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症感染防止対策として、入構する全学生と全教職員のマスク着用の徹底と検温の実施（発熱者に対しては保健室が対応）、各教室前や食堂入口等にアルコール消毒薬の設置、食堂の全テーブルにアクリル板の設置と黙食を促す貼紙、必要に応じキャンパス全体に注意を喚起する放送など各種対応をおこなった。

(カ) 教育後援会（保護者会）について

教育後援会は、学生・保護者・大学の三者間の連携を深めることでより一層の学生生活の充実を図り、家庭と大学が一体となって学生の成長を支援していこうという主旨で設立され 13 年目となる。役員相互の交流を図りながら円滑な運営が行われるよう事務局として支援した。

実施した総会等主な行事および新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、予定していたが中止となった主な行事は以下の通りである。

- ・総会 2021 年 5 月 22 日(土)会場開催中止
⇒会員全員に郵便にて資料を送付して、審議事項の決議をした。
- ・臨時総会 2021 年 12 月 23 日(木)発送
⇒会員全員に郵便にて資料を送付して、審議事項の決議をした。
- ・役員会・幹事会⇒第 1 回幹事会・役員会 2021 年 7 月 17 日(土)開催
 第 2 回幹事会・役員会 2021 年 9 月 25 日(土)開催
 第 3 回幹事会 2021 年 12 月 18 日(土)開催
 第 3 回役員会 2022 年 2 月 19 日(土)開催
- ・保護者懇談会 [岡山会場]2021 年 10 月 16 日(土)中止
 [本学会場]2021 年 10 月 23 日(土)開催
⇒公式サイト「教育後援会」の Web 上で、学長挨拶および就職説明会を YouTube にてライブ配信も行った。期間限定(2021 年 11 月 5 日～14 日)でアーカイブ配信も行った。
「2021 年度保護者懇談会 質問票・相談票」については、クラス担任、学科あるいは担当部署より質問者に対し個別で回答をおこなった。(16 件)
- ・教育懇談会 2022 年 2 月 19 日(土)開催

(8) 国際交流関係

① 語学研修・海外インターンシップについて（全学科全学年対象）

- (ア) 夏期語学研修：新型コロナウイルスの影響により派遣中止
- (イ) 夏期海外インターンシップ：新型コロナウイルスの影響により派遣中止
- (ウ) 春期海外インターンシップ（ハワイ・ホノルル）：新型コロナウイルスの影響により派遣中止
- (エ) 春期海外インターンシップ（中国・広東省）：新型コロナウイルスの影響により派遣中止
- (オ) 春期語学研修アデレード大学（オーストラリア）オンラインにて実施：参加者 4名

② セメスター留学について（英語学科 2年後期対象）

新型コロナウイルスの影響により派遣中止

③ 学科別海外研修について

- (ア) 日本語日本文化学科（海外日本語教育実習）：新型コロナウイルスの影響により派遣中止
- (イ) FHD 学科（海外研修）：新型コロナウイルスの影響により派遣中止
- (ウ) 教育学科（海外教育実習）：新型コロナウイルスの影響により派遣中止

④ 海外日本語教育助手について

- (ア) 北京外国語大学（中国）：1名（日本語日本文化学科 2020 年度卒業 1名）
実習期間 2021 年 9 月～2022 年 6 月
*新型コロナウイルスの影響により派遣中止。日本より遠隔にて実施。
- (イ) 閩江学院（中国）：1名（日本語日本文化学科 2020 年度卒業 1名）
実習期間 2021 年 9 月～2022 年 6 月
*新型コロナウイルスの影響により派遣中止。日本より遠隔にて実施。
- (ウ) アデレード大学（オーストラリア）：新型コロナウイルスの影響により派遣中止
- (エ) ベトナム国家大学ホーチミン市校（ベトナム）：新型コロナウイルスの影響により派遣中止

⑤ 受け入れ留学生

- (ア) 私費留学生 2名：食物栄養学科 4 年生、都市生活学科 3 年生
- (イ) 交換留学生 5名：閩江学院（中国）交換留学生 3名
ベトナム国家大学ホーチミン市校（ベトナム）交換留学生 2名
*新型コロナウイルスの影響により遠隔にて履修

(9) キャリアサポートセンター関係

① 学生の就職支援

2021 年度は昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響により就職支援行事を対面・オンラインと臨機応変に対応して実施した。

【オンライン実施】

就職オリエンテーション、就職ガイダンス、Brush Up セミナー（履歴書作成、模擬面接）、各種講座（グループディスカッション講座、筆記試験対策講座、業界・企業研究講座、動画選考対策）、内定者座談会、学内業界研究会、キャリアカウンセリング（個別相談）

【対面実施】

Brush Up セミナー（自己 PR 作成、学チカ作成）、各種講座（グループ面接講座、グループディスカッション講座）、U ターン就職セミナー、エアライン講座、証明写真撮影会、なんでも相談室

※グループ面接・グループディスカッション講座はオンライン・対面どちらも実施した。

② 就職状況 (2022年3月31日現在)

求職者数	就職者数	就職率
419人	411人	98.1%

③ 主な就職先

㈱エンジェルリゾートグループ小豆島	社会保険診療報酬支払基金	㈱ニチイ学館
㈱ホテルニューアワジ	大樹生命保険㈱	積水ハウス不動産関西㈱
ルートインジャパン㈱	日本生命保険相互会社	J R西日本不動産開発㈱
㈱中の坊	明治安田生命保険相互会社	㈱大倉
日本通運㈱	岡三証券㈱	パナソニック不動産㈱
CKTS㈱	播州信用金庫	㈱平尾工務店
㈱AIRDO	尼崎信用金庫	大東建託パートナーズ㈱
北海道空港㈱	アビリオ債権回収㈱	パナソニック㈱ ライフソリューションズ社
㈱関通	丹波ひかみ農業協同組合	㈱あきんどスシロー
ソフトバンク㈱	朝日電器㈱	日本マクドナルド㈱
東日本電信電話㈱	㈱ドウシシャ	(有)ツマガリ
コニカミノルタ情報システム㈱	㈱Francfranc	㈱ココスジャパン
㈱J R西日本 I Tソリューションズ	㈱チュチュアンナ	㈱スタッフサービス
㈱クラウドワークス	トリーバーチジャパン㈱	㈱マイナビ
㈱播磨リビング新聞社	㈱リンク・セオリー・ジャパン	神戸トヨペット㈱
㈱電通マクロミルインサイト	㈱ロエベジャパン	兵庫日産自動車㈱
関電コミュニティ㈱	ダイアナ㈱	G L I O Nグループ
よーじや グループ	㈱テイクアンドグヴ・ニーズ	ウエルシア薬局㈱
㈱オフテクス	㈱宝塚舞台	エームサービス㈱
甲南電機㈱	㈱ヨドバシカメラ	㈱LEOC
㈱ダスキン	㈱キタムラ	川西市
㈱ECC	㈱キリン堂	明石市

(10) 入試関係

(ア) 本学の入試制度

- ① 学校推薦型選抜 (指定校入試)
- ② 松蔭高校生特別推薦選考
- ③ スポーツ優秀者推薦選考 (I期・II期)
- ④ 総合型選抜 (AO入試)
- ⑤ 社会人特別入学試験 (I期・II期)
- ⑥ 帰国子女特別入学試験
- ⑦ 海外指定校特別推薦入学
- ⑧ 外国人留学生特別入学試験
- ⑨ 学校推薦型選抜A日程
- ⑩ 学校推薦型選抜B日程
- ⑪ 学校推薦型選抜C日程

- ⑫ 一般選抜A日程
- ⑬ 一般選抜B日程
- ⑭ 一般選抜C日程
- ⑮ 一般選抜D日程
- ⑯ 大学入学共通テストを利用する選抜（共通テストA・B・C、共通テストプラスA・B）

上記の入試制度により募集を行った結果、次のとおりの入試結果となり、大学は入学定員 570 名に対して入学者 359 名、定員充足率 63%であった。

また、すべての入学試験要項には、アドミッション・ポリシーを記載し、本学の学部・学科が求める入学生の資質を明確にしている。

2022 年度 入試結果

大学		募集人員	志 願	受 験	合 格	入 学
大学	指定校入試	94	189	189	189	189
	松蔭高校生		46	45	45	39
	スポーツ I・II		12	12	12	12
	AO入試	55	46	45	44	44
	社会人 I・II	若干名	0	0	0	0
	帰国子女		0	0	0	0
	海外指定校		0	0	0	0
	外国人留学生		1	1	1	1
	学校推薦型選抜A	130	170	166	132	19
	学校推薦型選抜B		169	164	137	7
	学校推薦型選抜C		90	73	58	8
総合型選抜						
学校推薦型選抜	計	279	723	695	618	319
大学	一般選抜A	249	257	254	219	21
	一般選抜B		72	39	32	4
	一般選抜C		45	36	27	4
	一般選抜D		25	10	2	2
	共通テストA	42	200	200	148	8
	共通テストプラスA		96	94	42	0
	共通テストB		40	40	25	1
	共通テストプラスB		14	7	4	0
	共通テストC		14	14	2	0
一般選抜						
共通テスト利用入試	計	291	763	694	501	40
合 計		570	1,486	1,389	1,119	359

(イ) 広報関係

① 出版物の作成

大学案内、入試ガイド、クイックガイド、受験生向け広報誌「Plus S」（年 3 回発行）、合格お

- めでとう号、トピックスリーフレット、入試問題集等の作成
- ② 公式サイトの更新
公式ホームページの情報更新等メンテナンス
 - ③ 受験生向けサイトの充実
アドミッション・ポリシーをはじめ大学や近隣情報など受験生の関心の高い情報を随時更新、**LINE** 配信
 - ④ 会場説明会
関西、北陸、中・四国などで開催される説明会は、新型コロナウイルス感染症の影響で中止や延期となるものがあったが 19 回実施。
 - ⑤ 高校内説明会
主に、兵庫、大阪の高校内で開催される相談会・進学説明会は、新型コロナウイルス感染症の影響で多くの相談会・進学説明会が中止となり 111 回の実施となった。
松蔭高等学校内での学科毎の説明会は、新型コロナウイルス感染症の影響で Zoom 開催。
 - ⑥ オープンキャンパス等の実施
4 月、6 月、7 月、8 月、9 月、3 月に計画していたオープンキャンパスは、新型コロナウイルス感染症の影響で入場者数を制限した短縮開催で 7 回実施、Web でのオープンキャンパス・入試対策講座の実施
 - ⑦ DM の作成、発送
オープンキャンパス、会場説明会の案内用 DM、チラシの作成及び発送
媒体紙の作成（新聞、雑誌）
業者企画の進学雑誌の作成、編集、校正
 - ⑧ 高校訪問専従者による高校訪問と専任職員による高校訪問
高校訪問専従者による兵庫県と大阪府のほぼ全域と、岡山県、広島県と徳島県、鳥取県の一部；
約 380 校への定期的な高校訪問ならびに高校訪問資料の作成
 - ⑨ 交通広告の作成
駅・バス停の看板の作成及び意匠変更
車内ポスターの作成
 - ⑩ その他 WEB 関連の作成
業者企画の WEB サイト上の本学情報の作成及び変更
 - ⑪ 高校教員対象の説明会の実施
大阪、本学での開催は、新型コロナウイルス感染症の影響で中止
 - ⑫ キャンパスグッズの作成
 - ⑬ 学生広報スタッフ研修会の実施
 - ⑭ その他
その他各種団体からの広告要望への対応
各種団体からの取材要望への対応
- (7) アドミッション・ポリシー
学生募集については、本学の学部・学科のアドミッション・ポリシーに基づき策定した入学試験制度により選考し、入学者を決定している。特に、総合型選抜の入学試験においては、志望学科のアドミッション・ポリシーと大学での学びの目標に関する内容を中心に口頭試問を行っている。

(11)施設・設備関係

- ① 3号館 332,341 教室、及び7号館を空調個別化に改修した。
- ② 1号館 5,6階西系統、及び3,13号館の空調設備を更新した。
- ③ 7,12,13号館の照明をLED照明照明器具に更新した。
- ④ 7号館1階、3階を改修し、演習室、自習室に整備した。
- ⑤ 11号館1～5階トイレを改修した。
- ⑥ 6号館 632教室を改修した。
- ⑦ 演習室、研究室等の必要個所に網戸を設置した。

(12)情報インフラ整備関係

- ① 学内無線LAN接続に関わるネットワークの増強を行った。(増設：42機、移設：18機)
- ② ファッション・ハウジングデザイン学科のパソコン教室3教室を整備し、パソコン86台、およびそれらを運用するサーバの入れ替えを行った。
- ③ 2020年度末に「文部科学省・令和2年度私立学校施設整備補助金(教育基盤)事業」で、CALL教室およびLL教室を見直し、再構築したコンピュータラーニング教室、アクティブラーニング教室運用を開始した。
- ④ Zoomの有償ライセンスの契約を100ライセンスに追加し、多人数での授業および時間制限に備えた。
- ⑤ マークシートリーダー1台の入れ替えを行った。
- ⑥ 事務系パソコン7台、プリンタ3台の更新を行った。

(13)キリスト教センター関係

- ① ヌーンサービス：月曜日～金曜日

※新型コロナウイルス感染症対策により、通常礼拝はチャプレンのみで実施

- ・誕生日感謝礼拝 4回(動画配信)
- ・逝去者記念礼拝 11月4日
- ・新年・成人祝福礼拝 1月11日
- ・阪神淡路大震災記念礼拝 1月18日

- ② 特別礼拝

- ・入学感謝礼拝 4月7日
- ・全校平和祈禱週間 7月5日～7月17日
- ・平和の折り鶴奉獻(広島)10月8日
- ・クリスマス礼拝 12月10日
- ・松蔭女子学院創立130周年記念礼拝 1月8日
- ・管理栄養士国家試験のための礼拝 2月10日

- ③ 式典

- ・9月学位記授与式 9月21日

- ④ 募金活動

2021年度 合計 ￥202,519

- ・クリスマス礼拝での会場献金および学内教職員献金 ￥124,863
- ・松蔭女子学院創立130周年記念礼拝での会場献金 ￥77,656

⑤ 結婚式：3組

⑥ 公開行事・イベント

- ・バッハ・コレギウム・ジャパン神戸松蔭チャペルコンサート 4回
8月8日(5月8日振替公演)、11月6日、11月27日、3月19日
- ・国際平和デーカリヨン演奏 9月21日
- ・クリスマスイルミネーション動画配信

⑦ 会場提供：2回

- ・ライブツィヒ・バッハ音楽祭映像撮影 6月2日
- ・松蔭中高マンドリン・バイオリンアンサンブル部 12月23日

(14) 図書館関係

① 図書館

〈所蔵数〉2022年3月末現在	(合計)	(和書)	(洋書)
蔵書冊数(備品)	418,001冊	308,458冊	109,543冊
雑誌種類数	3,549種	2,716種	833種
A V 資料	12,735点		

〈2021(令和3)年度受入数〉	(合計)	(和書)	(洋書)
図書	3,599冊	3,241冊	358冊
雑誌	952種	868種	84種
A V 資料	114点		
消耗図書	318冊		

<2021(令和3)年度利用統計>	(合計)	(学生)	(教職員他)
入館者数	15,316人	13,082人	2,234人
図書貸出数(A V資料含む)	20,659点	16,063点	4,596点
ノートパソコン貸出数	224台	212台	12台

<2021(令和3)年度遠隔サービス利用状況>	(対応数)
宅配貸出	69件
学外アクセス用データベースID発行	152件

開館日数 272日

相互利用 (他大学との協力)

複写依頼	複写受付	図書借用	図書貸出	閲覧依頼	閲覧受付
174	387	45	57	1	0

オリエンテーション・ガイダンス

- ・「新入生クラス別オリエンテーション」各学科・グループに分け、1年生に合計17回、262名に対して実施
- ・2年生以上の学生対象に論文作成及び卒業研究のためのガイダンス実施

除籍本の有効活用

- ・「図書館古本市場」年1回 1か月間実施
- ・公益財団法人 日本科学協会の「日中未来共創プロジェクト」を通じ中国の大学に156冊寄贈

その他

- ・テーマを決めて図書を展示
- ・テーマを決めてオススメ本紹介
- ・新着図書紹介
- ・学外ネットワークから契約オンライン資料へのアクセスを一元化するためのクラウド型プロキシ RemoteXs を導入、希望者にアクセス用 ID を発行
- ・遠隔授業のための「シラバス図書リスト」「データベースリスト」作成
- ・データベースの講習会を3日間オンラインで開催
- ・冊子資料の選書会を6月と10月の2回（各回とも約2週間）、オンラインで開催
- ・電子書籍の試読選書イベントを2か月間実施
- ・図書館活用方法動画の作成
- ・メールや電話でのリファレンスサービス実施
- ・郵送による貸出サービス実施
- ・「読書ラリー」実施（目標：卒業までに100冊読もう）
- ・「図書館マナーアップキャンペーン」実施
- ・「図書館ブログ」実施
- ・図書館サポーター企画の本棚「モノクル」及び「ブクログ」を利用した「オンラインモノクル」実施
- ・神戸大学附属図書館学生チーム ULiCS（うりくす）と本学図書館サポーターのオンライン交流会を実施
- ・オンライン開催の第23回図書館総合展_ONLINE_plus に参加
- ・週刊読書人「書評キャンパス」に図書館サポーター3名の書評を掲載
- ・「授業目的公衆送信」に関する手続き、及び「情報倫理」に関する説明実施
- ・キリスト教文化研究所・言語科学研究所・キリスト教センター配架資料の内、それぞれ357冊、677冊、100冊を図書館書庫へ移管処理

② 学術研究委員会

- ・出版 機関誌2誌をオンラインで刊行（研究紀要 No.3、TALKS No.25）
- ・研修 「研究倫理研修」を2021年度着任教職員と大学院1年生を対象に「一般財団法人公正研究推進協会」のオンライン教材を利用して実施し、専任教員5名、大学院生6名、他合計14名が修了

(15) 社会連携・社会貢献

社会連携・社会貢献活動に関する基本方針に沿った活動を下記のとおり実施した。

（※スペースの関係上、主な活動を記載）

- ① 自治体、企業、団体、教育機関、博物館等と連携することで本学及びこれらの機関が有する資源を活用し、地域社会の活性化に貢献する。（社会貢献）

連携機関	実施状況
神戸市地域子育て支援事業（まつぼっくり）	実施（2021年4月1日～2022年3月31日）
神戸市企画調整局	大学都市 KOBE 発信プロジェクト ナレッジキャピタルグランフロント北館展示
神戸市立ファッション美術館	FHD 学科卒業作品の展示 CP のカレンダー及びクリアファイル販売
灘区まちづくり課	灘区チャレンジ助成事業（オープンハート点灯、 灘区総合芸術祭参加）
灘区総務課	摩耶山ファミリーアドベンチャー参加

- ② 実践的教育研究活動を通して、地域における教育・研究の進展を図るとともに、地域社会に貢献できる人材を育成する。（人材育成）

具体的な方策	実施内容
授業公開講座	54 講座開講し 13 講座 9 名受講
神戸松蔭公開講座	前期：YouTube 録画配信（7 講座実施）

- ③ 本学の教育研究活動の成果を地域社会及び産業界のニーズに結びつけることで、地域社会の活性化及び課題解決に貢献する。（産官学連携）

連携機関	実施状況
サントリービバレッジ	自動販売機のデザインアイデア提供
JA 兵庫六甲農業協同組合 （伊川谷花卉青年部）	花田教授によるビオラプロジェクト実施 近隣施設へビオラ配付
西日本旅客鉄道株式会社（JR 西日本）	瀬戸内カレッジ（西予市及び井原市チーム）
スコットランド政府機関	「神戸松蔭タータン」スコットランド政府登録 後、特許庁より「商標登録」として認定される
株式会社ユタックス	産学連携協定を締結。FHD 学科（教員・学生） による商品開発等の提案を実施予定

- ④ 教育委員会、教育機関、大学コンソーシアムひょうご神戸等との教育支援や連携教育、スポーツ活動支援等を通して、相互の教育活動の充実及び地域社会における教育環境の向上に取り組む。（高大連携、地域の教育機関等との連携）

連携機関	実施状況
兵庫県教育委員会、神戸市教育委員会	書道コンクール開催（日本語日本文化学科）
兵庫県下 10 校の高等学校	高大連携協定締結。教員派遣を行う予定
松蔭高校	高大連携：大学特別講座実施
大学コンソーシアムひょうご神戸	企画運営、高大連携、教育連携、FD・SD、学 生交流、キャリア各事業委員会に参画

(16) 言語科学研究所

言語科学研究所の事業は次の活動からなっている。

1. 機関誌 *Theoretical and Applied Linguistics* (TALKS) の発行
2. 研修員・研修生の受け入れ
3. 国内外の研究者による研究講演会（コロキウム）の開催
4. ウェブサイトによる情報の発信

1. 機関誌 *Theoretical and Applied Linguistics* (TALKS) の発行

紀要 *Theoretical and Applied Linguistics* (TALKS) No.25 を発行した。No.25 は 6 名の執筆者による 6 編の論文が掲載されている。2014 年からのアクセス解析によると、2011 年に出版された論文 1 編は 10000 ダウンロード越えている。また、最近数年の間に出版されたものでも 8000 ダウンロードを越えるものが数編あり、本機関紙は言語学ならびに応用分野において学術的な資料としての機能を果たしているといえる。

2. 研修員・研修生の受け入れ

2021 年度は客員研究所員 5 名を受け入れた。客員研究所員は紀要 TALKS に投稿のほか、学会発表など活発な研究活動を行っている。

3. 国内外の研究者による研究講演会（コロキウム）の開催

近年、コロキウム等の開催は行われていないが、所員たちの多くが科学研究費を獲得し、研究に取り組んでいる。

4. ウェブサイトによる情報発信

紀要 *Theoretical and Applied Linguistics* (TALKS) は 2019 年 (No.22) 以降冊子を廃止し、神戸松蔭女子学院大学学術機関リポジトリを介して全論文を閲覧できるようにしている。

(17) 外国語教育センター

2021 年度外国語教育センターが実施した主な事業は次のとおり。

- ① 全新生への TOEIC Bridge IP TEST 実施（4 月）、429 名
- ② TOEIC Bridge IP TEST による英語科目レベル別クラス分けの実施（前期）
- ③ 事前登録、新生外国語科目変更等、履修登録関係全般の業務を行った。
- ④ 英語科目履修者（英語学科を除く）への TOEIC Bridge IP TEST 実施（1 月）、310 名
2021 年度より、第二回の実施時期を 7 月から翌年 1 月に移行。一年間を通して学生の英語力の向上を測定すること、また学習に対するモチベーションを維持・向上させることを目的とする。
- ⑤ 前期後期とも、遠隔授業と対面授業がいつ実施されてもよいように、教材準備等、種々のコロナ影響の準備を行い、対応をした。
- ⑥ 安全のため、外国語教育センター科目担当者（専任・非常勤）連絡会を開催せず、年間を通して各言語毎に連絡網を作成し、密に連絡を取り合って manaba における教授法などの交流を行った。
- ⑦ 2022 年度承認に向けて再度カリキュラムの見直しをした。
英語選択科目、学科共通プログラム（フランス語、中国語、韓国語）のため、新設・廃止科目の検討・整備等。
- ⑧ 全学希望者向け TOEIC IP オンラインテストを導入した。
年 3 回実施（6 月 23 日～30 日 56 名、11 月 4 日～10 日 54 名、1 月 17 日～24 日 43 名参加）
- ⑨ 英語学科・外国語教育センター両学科センター科目担当の新任英語ネイティブ非常勤講師の雇用に関する一切を執り行った。
英語 1 名、中国語 1 名。募集、書類審査、面接、推薦、担当科目のガイダンス。
- ⑩ 英語ネイティブ非常勤講師用ハンドブックを作成し配布した。
- ⑪ 外国語教育センター所員会議を Zoom で開催した。
年 7 回。5 月 13 日、6 月 10 日、7 月 8 日、10 月 7 日、11 月 4 日、12 月 9 日、2 月 3 日

- ⑫ English Island 開室（遠隔授業期間中は Zoom を導入）
延べ利用者数 前期4月～7月 264名、 後期9月～1月 292名
- ⑬ 外国語応援サロン開室（遠隔授業期間中は閉室）
延べ利用者数 前期4月～7月 52名、 後期9月～1月 96名
- ⑭ 英語スピーチコンテスト開催 12月16日 聴衆は Zoom で参加した。
- ⑮ 遠隔授業対応のため、CL2 教室を開放し、ヘルプデスクと連携して学生への便宜を図った。
- ⑯ TOEIC Bridge 監督説明会を実施した。3月30日 10:00～10:30。
- ⑰ 学内向け Web サイト管理運営を行った。
外国語教育センターホームページ、CL&AL教室、English Island

(18) 情報教育センター

情報教育センターが 2021 年度に実施した主な事業は次の通りである。

- ① 情報教育・コンピュータ教室関係
 - 2020 年度末に「文部科学省・令和 2 年度私立学校施設整備補助金（教育基盤）事業」で再構築した Windows 教室の運用を開始した
 - 在籍学生ならびに院生に対し Microsoft 365 Apps for students のライセンス提供を、教員（非常勤を含む）に対し Microsoft 365 Apps for Faculty のライセンス提供をそれぞれ開始した
 - 受講環境に関する Web アンケートを、入学直後の 2021 年度入学生を対象に実施した
 - 2020 年度は実施できなかった情報リテラシー教育改善のための Web アンケートを、後期講義期間開始直後に情報リテラシーB の受講者を対象に実施した
 - SA（Student Assistant）教育
 - 業務内容についてのオリエンテーションとスキルチェックを年度初めに実施した
 - 対面で集まった SA 勉強会は開催できなかったが、講義の進行に合わせて参考教材を配布して個別指導を行った
 - 講義期間終了後に SA の活動を報告した
 - 年度末に SA を対象にアンケートを実施した
- ② 学内ネットワーク関係
 - 遠隔受講者への授業配信により本学とインターネット間の通信量増加に対応するため、ルータの更新を行った
 - 本学とマイクロソフト社の契約の基に本学が発行するマイクロソフト組織アカウントと従来から発行している大学アカウントとを一元管理するために認証系の改編を行った

(19) 神戸松蔭こころのケア・センター

神戸松蔭こころのケア・センターは、地域に開かれた心理相談機関として、臨床心理学の教育・相談・研究の実践および地域貢献を目的として活動している。

- ① 教育活動について

2021 年 3 月に本学大学院を修了した者はいなかった。本学大学院を修了した者のうち、資格未取得者であった 3 名全員が、2021 年度の（公財）日本臨床心理士資格認定協会の「臨床心理士」資格試験に合格した（合格率 100%、全国の合格率 65.4%）。

また、国家資格である第 4 回公認心理師試験は、2020 年 3 月に本学大学院を修了した者で資格未取得者 3 名のうち 2 名が合格した（合格率 66.7%、全国の合格率 58.6%）。本学出身の受験

者総数は5名で、全体の合格者は4名であった（合格率80.0%）。

② 心理相談活動について

2021年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により、基本的な感染防止対策を講じつつ、可能な限り面接の頻度を減らすなどの対応を行った。本年度における新規の相談申し込みは69事例（昨年度25事例）であった。相談回数は合計927回（昨年度569回）であった。

③ 研究活動について

研究報告誌「神戸松蔭こころのケア・センター 臨床心理学研究 第16号」を2021年7月に刊行した。教員および修了生による学術論文を3点、センター相談スタッフおよび修了生による研究論文を2点掲載した。研究報告誌は、全国の臨床心理士養成指定大学院と学内外の関係者（コメンテーター、スーパーヴァイザー、本学教員など）に送付した。

また、修了生を対象に年1回開催されていた「ブラッシュアップ研修会」は新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、2021年度は開催を中止した。

④ 広報活動について

これまでは春季と秋季の2回にわたって無料相談会を実施していたが、2021年度は新型コロナウイルス感染症が拡大する地域における社会貢献の一環として、昨年度に引き続き、初回面接料金を無料とした。無料で行った初回面接は53件であった。ただし、利用者の増加による感染拡大を防ぐため、積極的な広報活動は行わなかった。

(20) キャリア教育センター

キャリア教育センターは各学科・センター、特にキャリアサポートセンターと連携しながら、本学のキャリア教育の充実を目標に以下のような活動を実施し、学生一人ひとりが入学時（前）から卒業後も見据えて就職・進路に積極的かつ体系的に取り組めるように支援した。

① 入学時からの履修モデルとして「キャリアデザインプログラム」を提案し、キャリア系列科目として以下10科目を開講している。

「キャリアデザインⅠ」、「キャリアデザインⅡ」、「キャリアデザイン研究」、「ホスピタリティ・マネジメント」、「エアライン・ホスピタリティ」、「インターンシップ」、「簿記・会計の基礎」、「簿記・会計の実践」、「企業・職種・業界の基礎知識」、「ファイナンシャル・プランニング」

② 全国大学実務教育協会が認定する資格取得者

「秘書士（国際秘書）」は1名、「上級秘書士国際秘書(119生以降)」は47名、「上級秘書士」は61名が資格を取得した。

③ ANA 総合研究所との提携

「ホスピタリティ・マネジメント（4クラス）」、「エアライン・ホスピタリティ（1クラス）」を開講した。エアライン相談室を10回実施した。

㈱ベネッセi-キャリアのアセスメントテストを実施した。1年生と3年生に思考力、姿勢・態度、経験の測定を目的とした「GPS-Academic」を実施した。このテストは1年生と3年生に同様のテストを受けさせ、2年間での自身の成長を図ることが出来る内容となっている。

結果については、1年生は動画で共有、3年生は1221教室で報告会を実施した。

④ 課外講座：資格・検定対策

(株)東京リーガルマインドに委託し、「資格サポートオフィス」を設置している。講座受講者については以下の通り。

2021年度受講者延べ人数：145名

2021年度については新型コロナウイルス感染症対策を重視した上で、人数制限を設けて講座を

実施した。講座の内容としては、MOS-Excel2019、MOS-Word2019、サービス接遇検定 2 級、ファイナンシャル・プランニング検定 3 級、日商簿記検定 3 級、公務員試験対策(3 年生向け)を対面講座として実施し、秘書検定 2 級、IT パスポート、SPI 対策、公務員早期スタート(1・2 年生向け)の各講座については、WEB 講座にて開講した。2020 年度はコロナウイルスの影響により、前期は全ての講座を不開講としていたこともあり 2021 年度は講座の受講者数が大幅に増加した。

⑤ 「公務員対策講座」の実施

資格サポートオフィスと連携し、公務員を目指す学生向けに昨年度に引き続き講座を開講した。2021 年度は、1・2 年生向けは Web 講座、3 年生は対面で講座を実施した。1 年生 5 名、2 年生 4 名、3 年生は 16 名が参加した。

(21) 教職支援センター

① 保育士資格および教育職員免許状（一種・専修）の授与件数

	保育士	幼稚園	小学校	中学校		高等学校		合計
		一種	一種	専修	一種	専修	一種	
授与件数	52	61	20	0	21	0	27	181

② 就職実績

就職者数	保育士		保育教諭		幼稚園教諭		小学校教諭		中学校教諭		高等学校教諭	
	正規	その他	正規	その他	正規	その他	正規	その他	正規	その他	正規	その他
	公 2 私 14	公 1 私 1	公 1 私 9	公 1 私 1	公 1 私 10	公 1 私 1	公 9 私 1	公 3 私 1	公 1 私 1	公 1 私 1	公 1 私 1	公 1 私 1
17		9		10		12		2		1		

③ 教員採用試験対策セミナーの実施

教員採用試験対策講座 16 講座を実施した。ただし、教採対策合宿については COVID-19 の影響により中止した。

④ 教職支援センター年報

教職支援センター年報第 6 号を 2021 年 9 月 30 日に発行した。

⑤ 教員免許状更新講習

必修領域ならびに選択必修領域にてオンラインで開設した。

■日時

2021 年 8 月 3 日（火）～8 月 4 日（水） 9 時～15 時 30 分

(22) 中期計画及び事業計画の進捗・達成状況

① 全体目標

「学院創立 130 周年に向けた中期ビジョン」で示した「2022 年度までの目標」では、まず全体目標として、「2019 年度の入学定員を維持して全学年で定員前後の在学学生数とすることで、2022 年には在学学生数 2300 名、教育の質の高さで評価される大学であることを目標とする。」とした。本学は 2017 年度入試から入学定員充足率が上昇し、2019 年度、2020 年度入試では定員以上の入学生を確保した。しかしながら、2020 年度に実施した 2021 年度入試は一般選抜の受験者数が 2020 年度入試に比べて激減し、定員充足率 76%という厳しい結果となった。大学入学共通テストをはじめとする大きな入試制度改革とコロナ禍という特殊な状況で行わ

れたが、受験生の進学先決定の早期化が続くことが想定されたため、学校推薦型選抜（指定校入試）での学生募集を強化した。2022 年度入試については学校推薦型選抜（指定校入試）での入学者は前年度を上回ったが、学校推薦型選抜（A・B・C 日程）以降の受験生が前年度よりさらに減少し、2022 年度入学者は定員充足率 63%という結果となった。2022 年度の在学学生数の目標は残念ながら達成することはできなかった。

データに基づく大学運営については、学長直属の IR 室を設置し、学内で実施する調査の整理と連携を行い、入学時と卒業時の調査についてデータの一元化を行った。さらに、学習成果の測定に関するデータ収集の一元化を IR 室で進めており、2021 年度はカリキュラム・マップに基づいてディプロマ・ポリシーの到達度を図示する方法の検討を行った。2022 年度には試行する予定である。

② 学びの目標設定と学修成果の測定

授業での到達目標の明示は全ての科目で実施されている。学位プログラムとしてふさわしい明確な学修目標の設定については、教学マネジメント会議においてディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの点検と、それらに沿った科目設定、学修目標の設定を点検している。特に、大学の教育課程の入口・出口の基幹科目と位置づけられる初年次教育科目と卒業研究については、2019 年度に各学科に向けて「初年次教育科目の設定の指針」「卒業研究の科目設定の指針」を発信し、学科において学修目標を統一するよう求め、2020 年度以降その指針に沿った実施状況の点検を行っている。さらに 2021 年度は、FD 研修会においてルーブリックを活用した評価についての説明会を行い、全学科で基礎演習など初年次教育科目と卒業研究のルーブリックを作成するワークショップを行った。2022 年度は、両科目の学科毎の評価基準をルーブリックという形で学生に公開することで、到達目標をより具体的に示していく。

授業科目の到達目標だけでなく、資格取得や授業外での学びも含めた「学びの目標」を学生に示すことについては、2020 年度に新型コロナウイルス感染症対策として対面での新入生オリエンテーションをほとんど行わずに前期の全授業を遠隔でスタートしたため、1 年生に対する学科の学びの目標の説明を充分に行えなかった。2022 年度新入生に対しては全学科で「学びの目標」を示して説明する形に戻っている。

学修成果の測定については、在学中の学修記録として、授業以外に学内外で取り組んださまざまな活動や取得・受験した資格や検定の記録を入力するアクティビティ・ログと、一年間の活動を振り返り、今年一年間の頑張りとしりなかつた部分、また、来年度にむけた活動の計画などを入力する「学科の学び」ふりかえりレポートの作成を学生に求めている。さらに、カリキュラム・マップに基づいたディプロマ・ポリシーの到達度の図示を 2022 年度に試行する。ディプロマ・ポリシーに沿った各学年の到達度、アクティビティ・ログ、「学科の学び」振り返りレポートをセットにし、ポートフォリオとしてまとめて学生にフィードバックしていく。

③ 学び続けることを可能にする力の養成

2020 年 3 月の教育改革プロジェクト答申で打ち出した「課題を見出して解決策を提案できる力」と「情報技術を理解し、主体的に活用できる力」の養成に向けて、2022 年度以降入学生の新学共通科目新系列と開講科目を 2021 年度に決定した。全学共通科目にもゼミ形式の授業、PBL（Project-Based Learning：課題解決型学習）を取り入れた授業の配置を進め、数理統計教育科目の展開を開始する。また、遠隔授業実施によって進んだ教育の ICT 化と学生の ICT 能力の向上を維持・発展するため、2021 年度はすべての授業で松蔭 manaba を学習支援

のために使用すること求めた。2022年度以降入学生からのノート PC 必携化（BYOD : Bring Your Own Device）を決定し、導入教育科目を BYOD 対象科目とした。

このような教育改革のための教育環境整備として、普通教室の ICT 機器の整備ならびにグループワークなどを行いやすい教室を増やしている。2021年度は、2号館にアクティブ・ラーニング教室を新設し、7号館の演習室を改修した。7号館では大教室と1階ロビーを、PC使用を前提とした自習スペースへと改修した。また、BYODに対応するため大学全体で教室のWi-Fi受信環境を改善し、学生の持ち込みPCの設定・操作を指導・相談態勢を構築した。また、Microsoft 365を学生全員が学内・自宅どちらでも無償使用できるようにし、教育におけるOfficeソフトの利用を一層進めている。

④ 学び合う体制の整備

ゼミを本学の教育の基幹と位置づけるとともに、課題解決型の授業、グループワークを取り入れた授業を増やすことで、学生同士が学びあう機会を増やしている。その成果の一つが、ファッション・ハウジングデザイン学科の授業で生まれた本学独自のタータンデザイン（神戸松蔭タータン）である。2021年度にスコットランド・タータン登記所への登録を行い、日本の特許庁における商標登録も取得した。学生たちがアイデアを出し合い、このデザインを用いた衣装や商品の制作が始まっている。

スチューデント・アシスタント等のピア・サポートについてはコロナ禍のために停滞していた。2022年度は感染防止対策に配慮しながら再開していく。

⑤ 学生支援と学内活性化

2020年度に引き続き2021年度も、学生が新型コロナウイルスの感染者・濃厚接触者となった場合や、新型コロナウイルス感染症の可能性がある症状となった場合の対応が重要な課題であった。これらの場合には登校せずに学生支援室に連絡するよう学生に通知し、保健室による聞き取りを行い、その報告に基づいて出校停止措置適用の有無やその期間の判断といったことをスムーズに行うための、オンライン報告・検討システムを構築して運用した。出校停止となった学生については「対面授業欠席届」を発行し、授業担当者にその対応を求めることを2020年度後期より行っていたが、2021年度はその申請方法や判断基準を明確にした。さらに、神戸大学の協力を得て、本学学生・教職員を対象とした新型コロナウイルスワクチンの職域接種を実施した。職域接種などワクチン接種とその副反応による欠席についても配慮するよう授業担当者に要請した。

新型コロナウイルス感染症対策以外の学生支援について、周囲となじめず孤立しがちな学生の居場所となるスペースの設置を検討してきたが、保健室に隣接した教室を使用することが決定し、2022年度からの運用に向けて改修を行った。

クラブや同好会は、2020年度のようなキャンパス施設利用を禁止するといった対応は行わなかったが、感染状況や兵庫県などの要請を踏まえながら、感染防止対策や練習計画の提出などの制限を設けた上での活動となった。学友会、松蔭チャレンジ・プログラム、学科によるピア活動、チャペル奉仕活動など学生たちが大学を活性化する取り組みについては、2020年度はほぼ中止していたが、2021年度は感染防止対策を行った上で再開していった。大学祭はオンラインで実施した。

⑥ キャンパス整備

キャンパス整備については、2020年度、2021年度と、チャペルの換気設備の設置、教室の網戸の設置など感染症対策を優先的に行なった。食堂では、机のパーティションや網戸、空気清浄機の設置など感染防止対策を行うだけでなく、電子マネー対応券売機の設置、弁当販売などに取り組んだ。改修を計画していた学生ホールについては、売店をコンビニ・フランチャイズの運営へと切り替えて学生の利便性向上を実現したが、学生ホールそのものは、感染症対策のための検温・手指消毒場所として利用していることから改修を見合わせていた。2022年度には改修計画を決定する。

⑦ 地域貢献の推進と拠点の整備

2020年度に予定されていた多くの社会貢献・地域貢献活動が中止となったが、2021年度は兵庫県における緊急事態宣言の発出などの状況を見ながらではあったが徐々に再開していった。神戸市の地域子育て支援拠点事業による神戸松蔭子育て支援フリースペース「まっぼっくり」を再開し、神戸市企画調整局との連携によるナレッジキャピタルでの情報発信を継続した。灘区の総合芸術祭では学生たちが書道パフォーマンスを行った。食物栄養学科は神戸市中央卸売市場東部市場と連携活動を行っており、2021年度は学生ボランティアが「東部市場広報サポーター」として大学生の目線から東部市場の魅力を広報した。

連携協定を結んでいる神戸ファッション美術館では、ドレスコレクション展「神戸、まちのファッションの現在形」に本学ファッション・ハウジングデザイン学科生が制作した「神戸松蔭タータン」や「神戸タータン」柄を使ったドレスが展示された。また、ファッション・ハウジングデザイン学科の2021年度卒業制作展示を行った。

英語学科の国際プロジェクト演習、都市生活学科の都市生活プロジェクト演習、ファッション・ハウジングデザイン学科の地域貢献デザイン演習、地域プロデュース演習といった授業での取り組みも本格化してきた。例えば、JR西日本によるカレッジへの参加、上述した神戸松蔭タータンによる商品開発などである。

大学会館に代わる地域貢献拠点の設置計画については、感染症の中長期的な影響を見定める必要があることから一時停止している。

Ⅲ 財務の状況

1. 決算の概要

1. 決算の概要

(1) 貸借対照表関係

ア) 貸借対照表の状況と経年比較

単位：千円

科 目	H29年度	H30年度	H31年度	R02年度	R03年度
有形固定資産	17,212,022	16,906,720	16,567,917	16,332,669	16,401,807
特定資産	5,754,304	5,702,308	5,772,241	5,775,476	5,682,987
その他固定資産	168,460	159,939	95,158	88,203	89,205
固定資産計	23,134,786	22,768,966	22,435,315	22,196,348	22,173,999
現金預金	3,579,702	3,701,301	3,617,404	3,424,498	3,237,123
その他流動資産	36,303	28,761	27,226	61,132	39,155
流動資産計	3,616,005	3,730,061	3,644,631	3,485,630	3,276,278
資産の部合計	26,750,791	26,499,027	26,079,946	25,681,978	25,450,277
長期借入金	333,320	280,560	227,700	204,930	182,160
退職給与引当金	714,507	668,103	692,377	676,392	688,944
その他固定負債	24,338	24,338	24,338	10,341	10,341
固定負債計	1,072,165	973,002	944,415	891,663	881,445
短期借入金	52,760	52,760	52,860	22,770	22,770
未払金	17,003	14,704	34,149	6,489	8,081
前受金	994,719	1,099,430	1,084,183	1,012,307	898,073
その他流動負債	157,888	200,440	166,586	218,950	230,670
流動負債計	1,222,369	1,367,334	1,337,778	1,260,516	1,159,594
負債の部合計	2,294,534	2,340,335	2,282,193	2,152,179	2,041,039
1号基本金	25,234,326	25,359,577	25,342,883	25,362,784	25,849,752
2号基本金	0	0	0	0	0
3号基本金	311,214	311,214	311,214	311,214	311,214
4号基本金	284,000	284,000	284,000	284,000	284,000
基本金計	25,829,540	25,954,791	25,938,097	25,957,998	26,444,967
繰越収支差額	△ 1,373,284	△ 1,796,099	△ 2,140,344	△ 2,428,200	△ 3,035,729
純資産の部合計	24,456,257	24,158,692	23,797,753	23,529,798	23,409,238
負債及び純資産の部合計	26,750,791	26,499,027	26,079,946	25,681,978	25,450,277

イ) 財務比率の経年比較

単位：千円

	H29年度	H30年度	H31年度	R02年度	R03年度
基本金要組入額	49,340	58,991	△ 68,308	△ 94,105	464,199
基本金組入額	102,100	125,251	△ 16,694	19,901	486,969

	H29年度	H30年度	H31年度	R02年度	R03年度
運用資産余裕比率	240.3%	239.2%	231.2%	211.7%	213.1%
流動比率	295.8%	272.8%	272.4%	276.5%	282.5%
純負債比率	8.6%	8.8%	8.8%	8.4%	8.0%
前受金保有率	359.9%	336.7%	333.7%	338.3%	400.6%
基本金比率	206.9%	212.3%	24.4%	-21.1%	104.9%
積立率	98.5%	95.9%	92.3%	88.8%	82.8%

(2) 資金収支計算書関係

ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

単位：千円

科 目	H29/3	H30/3	H31/3	R02/3	R03/3
学生生徒等納付金収入	2,648,613	2,657,374	2,855,889	3,049,960	2,942,036
手数料収入	40,380	48,318	48,805	35,562	30,553
寄付金収入	16,783	15,255	12,081	7,982	18,661
補助金収入	515,116	491,515	484,801	682,629	696,585
資産売却収入	244,169	165,905	81,400	1,178,627	0
付随事業収入	7,087	5,741	1,055	145	242
受取利息・配当金収入	117,389	109,626	110,975	109,858	122,426
雑収入	126,510	170,286	78,770	251,795	159,974
借入金収入	0	0	0	0	0
前受金収入	994,719	1,099,430	1,084,183	1,012,307	898,073
その他の収入	391,031	359,974	328,287	417,102	492,014
資金収入調整勘定	△ 1,012,546	△ 999,981	△ 1,103,248	△ 1,121,051	△ 1,027,346
前年度繰越支払資金	3,757,184	3,579,702	3,701,301	3,617,404	3,424,498
収入の部合計	7,846,435	7,703,145	7,684,298	9,242,321	7,757,716

科 目	H29/3	H30/3	H31/3	R02/3	R03/3
人件費支出	2,291,590	2,333,270	2,310,098	2,535,663	2,411,536
教育研究経費支出	596,420	649,907	683,142	966,700	832,221
管理経費支出	362,010	391,636	470,129	340,700	402,239
借入金等利息支出	5,843	5,129	4,415	3,701	3,176
借入金等返済支出	52,760	52,760	52,760	52,860	22,770
施設関係支出	119,429	68,890	54,631	238,079	429,393
設備関係支出	50,151	79,814	72,457	122,991	65,189
資産運用支出	494,202	164,901	106,754	1,283,668	93,177
その他の支出	323,058	286,109	358,243	295,584	281,078
資金支出調整勘定	△ 28,731	△ 30,572	△ 45,735	△ 22,123	△ 20,185
次年度繰越支払資金	3,579,702	3,701,301	3,617,404	3,424,498	3,237,123
支出の部合計	7,846,435	7,703,145	7,684,298	9,242,321	7,757,716

イ) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

単位：千円

	H29/3	H30/3	H31/3	R02/3	R03/3
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	3,340,720	3,376,322	3,473,144	4,000,837	3,831,578
教育活動資金支出計	3,250,020	3,374,814	3,463,368	3,843,063	3,645,996
差引	90,700	1,508	9,776	157,773	185,582
調整勘定等	4,143	105,658	△ 30,400	△ 76,822	△ 93,691
教育活動資金収支差額	94,842	107,166	△ 20,623	80,951	91,891
施設整備活動による資金収支					
施設整備等活動活動資金収入計	13,768	12,167	89,657	1,133,737	16,472
施設整備等活動活動資金支出計	502,802	213,490	181,147	1,438,882	494,582
差引	△ 489,034	△ 201,323	△ 91,491	△ 305,145	△ 478,110
調整勘定等	2,952	△ 773	0	△ 25,802	6,352
施設整備等活動資金収支差額	△ 486,082	△ 202,096	△ 91,491	△ 330,947	△ 471,758
その他活動による資金収支					
その他の活動活動資金収入計	722,936	626,946	434,000	595,268	577,572
その他の活動活動資金支出計	508,988	416,109	430,297	513,880	385,080
差引	213,948	210,837	3,703	81,388	192,491
調整勘定等	△ 190	5,690	24,515	△ 24,299	0
その他の活動資金収支差額	213,758	216,528	28,218	57,090	192,491
前年度繰越支払資金	3,757,184	3,579,702	3,701,301	3,617,404	3,424,498
翌年度繰越支払資金	3,579,702	3,701,301	3,617,404	3,424,498	3,237,123

ウ) 財務比率の経年比較

	H29/3	H30/3	H31/3	R02/3	R03/3
教育活動資金収支差額比率	2.8%	3.2%	-0.6%	2.0%	2.4%

(3) 事業活動収支計算書関連

ア) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

単位：千円

	H29/3	H30/3	H31/3	R02/3	R03/3	
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒納付金	2,648,613	2,657,374	2,855,889	3,049,960	2,942,036
	手数料	40,380	48,318	48,805	35,562	30,553
	寄付金	6,171	4,201	3,824	6,820	3,855
	経常費等補助金	511,960	490,402	484,801	656,554	694,919
	付随事業活動収入	7,087	5,741	1,055	145	242
	雑収入	126,510	170,286	79,503	251,795	160,071
	教育活動収入計	3,340,720	3,376,322	3,473,878	4,000,837	3,831,675
	事業活動支出の部					
	人件費	2,287,491	2,286,867	2,334,372	2,505,680	2,424,087
	教育研究経費	1,017,385	1,056,361	1,070,291	1,345,534	1,220,801
	管理経費	405,500	436,302	515,430	380,025	438,050
	徴収不能額等	0	488	0	405	0
	教育活動支出計	3,710,376	3,780,018	3,920,092	4,231,644	4,082,938
教育活動収支差額	△ 369,656	△ 403,697	△ 446,214	△ 230,808	△ 251,263	
教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	115,044	107,280	108,572	107,512	120,128
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入計	115,044	107,280	108,572	107,512	120,128
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	5,843	5,129	4,415	3,701	3,176
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出計	5,843	5,129	4,415	3,701	3,176
教育活動外収支差額	109,201	102,151	104,157	103,811	116,952	
経常収支差額	△ 260,456	△ 301,546	△ 342,057	△ 126,996	△ 134,311	
特別収支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	81,080	6,738	70,130	27,819	0
	その他特別収入	16,031	13,580	10,357	28,381	17,701
	特別外収入計	97,111	20,317	80,487	56,200	17,701
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	1,465	16,336	99,369	197,159	3,950
	その他の特別支出	0	0	0	0	0
	特別支出計	1,465	16,336	99,369	197,159	3,950
特別収支差額	95,646	3,981	△ 18,882	△ 140,959	13,751	
基本金組入前当年度収支差額	△ 164,810	△ 297,564	△ 360,939	△ 267,955	△ 120,560	
基本金組入額合計	△ 102,100	△ 125,251	0	△ 19,901	△ 486,969	
当年度収支差額	△ 266,910	△ 422,815	△ 360,939	△ 287,856	△ 607,529	
前年度収支差額	△ 1,106,374	△ 1,373,284	△ 1,796,099	△ 2,140,344	△ 2,428,200	
基本金取崩額	0	0	16,694	0	0	
翌年度収支差額	△ 1,373,284	△ 1,796,099	△ 2,140,344	△ 2,428,200	△ 3,035,729	

イ) 財務比率の経年比較

	H29/3	H30/3	H31/3	R02/3	R03/3
人件費比率	66.2%	65.6%	65.2%	61.0%	61.3%
教育研究経費比率	29.4%	30.3%	29.9%	32.8%	30.9%
管理経費比率	11.7%	12.5%	14.4%	9.3%	11.1%
事業活動収支差額比率	-4.6%	-8.5%	-9.9%	-6.4%	-3.0%
学生生徒納付金比率	76.6%	76.3%	79.7%	74.2%	74.4%
経常収支差額比率	-7.5%	-8.7%	-9.5%	-3.1%	-3.4%

2. その他

(1) 有価証券の状況

単位：円

	当年度(令和4年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時 価	差 額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	2,321,519,633	2,946,499,526	624,979,893
（うち満期保有目的の債券）	(1,169,722,019)	(1,305,752,950)	(136,030,931)
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	2,480,618,217	2,163,874,134	△ 316,744,083
（うち満期保有目的の債券）	(0)	(0)	(0)
合 計	4,802,137,850	5,110,373,660	308,235,810
（うち満期保有目的の債券）	(1,169,722,019)	(1,305,752,950)	(136,030,931)
時価のない有価証券	0		
有価証券合計	4,802,137,850		

(2) 借入金の状況

単位：円

種類	期末残高	利率	償還期限
[長期借入金] 日本私立学校振興・境界事業団	182,160,000	1.45%	令和12年9月15日
[短期借入金] 日本私立学校振興・境界事業団	22,770,000	1.45%	令和4年9月15日
合 計	204,930,000		

日本私学振興・共済事業団、兵庫県私学振興協会から、松蔭中学校・高等学校の耐震改修工事費用として借入を行っている。上記短期借入金は、長期借入金の1年以内返済分である。

(3) 学校債の状況

学校債の発行はない。

(4) 寄附金の状況

個人・団体等から以下のとおりの寄附金を受領した。 単位：円

	金額	寄付者・内容
一般寄附金	1,600,000	個人
特別寄付金	2,255,000	個人・任意団体等
施設・設備寄附金	14,806,000	個人
現物寄附金	1,229,353	図書・機器備品
合計	19,890,353	

(5) 補助金の状況

	金額	内容
経常費補助金	400,181,000	文部科学省
施設設備補助金	1,666,000	文部科学省
地方公共団体補助金	294,737,899	神戸市ほか
科学研究費補助金	19,093,469	文部科学省 採択課題32件
合計	715,678,368	

経常費補助金には、高等教育の修学支援に係る授業料減免等交付金 129,618,000 円を含む。

(6) 収益事業の状況

収益事業は行っていない。

(7) 関連当事者との取引の状況

単位：円

属性	役員・法人等の名称	住所	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権所有割合	関係内容		取引内容	取引金額	勘定科目	期末残高
						役員 の兼任等	事業上 の関係				
関係法人 (注)	社会福祉法人 松蔭ミカエル 福祉会	神戸市 東灘区	—	認定子ども 園の経営	社会福祉法 人であるこ とから議決 権の所有割 合は定めら れておりませ ん	兼任1名	—	当法人所有 土地の使用 貸借契約	—	—	—

(8) 学校法人間財務取引

学校法人間の財務取引はない。

3. 経営状況の分析と経営上の課題

[経営状況の分析]

- ・令和3年度の資金収入では、大学・中高共に入学者・在籍者数が減少したことで学生生徒等納付金収入が約108百万円前年比減収となった。(以下の計数は前年度との増減で示す)
- ・手数料収入は入学検定料の減少等により減収となったが、寄付金収入は中高で特別寄付金が約10百万円増収となったことに加え、大学の経常費補助金収入増により補助金収入が約14百万円増加した。
- ・資産売却収入は投資信託・ETFの売却を行わなかったことでゼロであったが、ポートフォリオ運用が好調であったことで受取利息・配当金収入は約13百万円増加した。
- ・雑収入の減収は、主として退職金財団からの交付金減によるものである。前受金収入は学生生徒数減少と年度内収納率の低下により約114百万円の減収となった。
- ・資金支出では人件費支出が退職金支出減と教職員の年次構成変化により約124百万円減少した。教育研究経費支出は新型コロナウイルス感染症対策で対面での教育研究活動が制限されたことにより約134百万円支出減となった。一方、管理経費支出は募集広告費や大学における補助活動支出が増加した結果、約62百万円支出増となった。
- ・施設関係支出等の設備投資は空調設備個別化や水回りの改修等の教育環境改善に向けた設備投資が中心である。設備関係支出は、主にICT機器の入れ替えや教室設備の改修によるものである。資産運用支出は、中高での特定資産への繰入支出である。

[経営上の課題]

- ・事業収支計算書における教育活動収支差額・経常収支差額がマイナスとなっており、これらをプラス転換させていくことが最大の課題である。それには入学者数増加が不可欠であり、学生生徒募集に資する教育プログラム開発や教育環境充実には重点的に経営資源を配分しつつ、費用対効果を踏まえた経費コントロールの強化が必要である。
- ・加えて、寄付金や受取利息・配当金など収入の多様化を図ると共に、私立大学等改革総合支援事業や科研費等の競争的資金獲得に向けた体制強化も課題である。

[今後の財務運営方針]

- ・持続的な発展に向けた財務基盤確立に向け以下の①～③を目標値として財務運営を行っていく。
 - ① 事業活動収支差額比率1%以上
 - ② 設備投資額（施設関係支出・機器備品支出）は前年度減価償却額比50%を上限
 - ③ 教育研究比率30%以上
- ・上記目標の達成に向けては、入学者数の確保による収入増に並行して支出面で収入状況に合わせた経費コントロール強化も推進する。具体的には適正人員を見据えた人員計画策定による人件費水準の抑制、経常経費予算要求におけるシーリング導入によるコスト削減意識の定着、費用対効果を踏まえた設備投資の実施を徹底していく。
- ・そうした取り組みによって、将来の営繕を含めた設備更改への備えとして自己資金蓄積を引続き計画的に進めると共に、経費コントロールと教育環境充実に向けた投資とのバランスに留意した財務運営を基本方針とする。

4. 財産目録

科目	年度		令和 3 年 3 月		令和 4 年 3 月	
一基本財産			15,561,656,635	円	15,441,486,466	円
1. 土地						
(1) 大学校地	44,321	m ²	3,858,185,920	円	44,321	m ²
(2) 中高等学校校地	13,522	m ²	385,483,264	円	13,522	m ²
(3) 運動場	38,564	m ²	3,844,312,324	円	38,564	m ²
(4) その他	33,772	m ²	50,529,495	円	33,772	m ²
計	130,179	m ²	8,138,511,003	円	130,179	m ²
2. 建物						
(1) 校舎	47,869	m ²	3,399,605,365	円	47,869	m ²
(2) 図書館	4,154	m ²	227,479,846	円	4,154	m ²
(3) 体育館	7,832	m ²	772,438,683	円	7,832	m ²
(4) その他	2,677	m ²	127,435,006	円	2,677	m ²
計	62,200	m ²	4,526,958,900	円	62,200	m ²
3. 図書	521,298	冊	2,560,548,131	円	526,613	冊
4. 教具・工具及び備品	18,987	点	218,526,237	円	18,087	点
5. その他			117,112,364	円	110,087,051	円
二運用財産			9,582,919,063	円	9,274,104,334	円
1. 預金・現金			3,424,498,202	円	3,237,123,343	円
現金			7,487,765	円	6,727,578	円
普通預金			1,351,010,437	円	1,464,395,765	円
定期預金			2,066,000,000	円	1,766,000,000	円
2. 積立金			5,780,279,637	円	5,687,733,280	円
3. 不動産			276,469,297	円	276,469,297	円
4. 未収入金・前払金・その他			101,671,927	円	72,778,414	円
三負債額			2,152,179,492	円	2,041,038,848	円
1. 固定負債			891,663,027	円	881,444,722	円
(1) 日本私立学校振興・共済事業団			204,930,000	円	182,160,000	円
(3) 退職給与引当金			676,391,920	円	688,943,615	円
(4) 退職預り金			10,341,107	円	10,341,107	円
2. 流動負債			1,260,516,465	円	1,159,594,126	円
(1) 短期借入金			22,770,000	円	22,770,000	円
(2) 前受金			1,012,307,200	円	898,073,400	円
(3) 未払金			6,488,888	円	8,080,923	円
(4) 預り金			218,950,377	円	230,669,803	円
四基本財産＋運用財産			25,144,575,698	円	24,715,590,800	円
五純資産(四-三)			22,992,396,206	円	22,674,551,952	円
総負債(三)－前受金			4.5	%	4.6	%
総資産(四)						

5. 監事の監査報告書

監事監査報告書

令和4年5月18日

学校法人 松蔭女子学院
理事長 中村 豊 殿

学校法人 松蔭女子学院
監事 山口 純
監事 光葉 正博

私ども監事は、私立学校法第37条第3項に基づき、学校法人松蔭女子学院の令和3年度（令和3年4月1日から令和4年3月31日まで）の業務若しくは財産の状況又は理事の業務執行の状況について監査した。

1. 会計帳簿は、記載すべき事項を正しく記載し、計算書類の記載と合致していると認めます。
2. 資金収支計算書、事業活動収支計算書類及び貸借対照表（左記いずれも付属明細書を含む）ならびに財産目録は、法令及び寄附行為に従い、学校法人の財産及び経営の状況を正しく示しているものと認めます。
3. 学校法人松蔭女子学院の業務に関する決定及び執行又は理事の業務執行は適切であり、業務若しくは財産又は理事の業務に関する不正の行為、または法令もしくは寄附行為に違反する重大な事実はありません。

以上

IV 対処すべき課題

1. 中学校・高等学校教育関係

スクールモットー、3 ポリシー、学校運営方針を日常の教育活動に落とし込むことが課題である。私学は、特色教育や独自の教育内容により一人ひとりの生徒の成長する姿の蔭に、学校の教育力を確認できてこそ存在価値がある。公教育の一端を担いつつ、キリスト教主義学校として建学の精神を活かし、次代を見据える新しい学校づくりをすすめたい。

2. 中学校、高等学校の生徒募集計画

(1) 中学校生徒募集

2023 年度入試については、募集人数を合計 150 名とし、定員充足率を上昇させるべく「中学入試制度」の次の 3 局面について取り組みを強化する。①A 方式入試志願者・入学手続き者増加。②B 方式入試志願者増加、合格辞退者数減少。③英語入試、課題図書プレゼン入試の特色入試の志願者数増加。

①については、生徒が校内で生き生きと学ぶ姿を、現在の学校改革の進展状況とともに幅広く公開し、オープンスクール、説明会、プレテストなど校内イベントへの参加者増をはかる。また、オンライン説明会による広報活動や受験相談対応も積極的に行う。

②については、大手塾中学受験塾への働きかけを一層強化する。

③については、小学生対象の英会話講座「松蔭 ELS 講座」の受講生増を図り、参加者を中学校への志願につなげるとともに、「英語の松蔭」のブランディングを強化する。英語入試による志願者増をはかるため小学生向けの英語塾、英会話教室に対する広報活動も強化する。また、GS（グローバルストリーム）の生徒募集対策として、近隣のインターナショナルスクールや小学生対象英会話教室等を訪問し、広報活動をすすめる。図書館の地域開放「サタデーライブラリー」の案内チラシを近隣の灘区、中央区の小中学校で配布し、来校者、利用者を増やすとともに、本校の読書教育、国語教育を紹介し、課題図書プレゼン入試への出願者増につなげる。従来の「中学受験市場」を越えて中学受験層の拡大を図ることが肝要である。

(2) 高等学校生徒募集

2023 年度募集では、新たに 3 コース制（LS：ランゲージ&サイエンスコース、AA：アスリート&アーティストコース、GL グローバルリーダーコース）となる。募集人数を 10 名増員し約 50 名（専願、併願）とする。2015 年度より高校募集を再開し、初年度 10 名募集、その後の 20 名募集（2018 年度）、40 名募集（2022 年度）を経て、本校の高校募集は着実に認知されてきた。3 コース制募集開始を契機に、中学校訪問の担当職員と、社会体育関係団体や英会話塾等を訪問する担当職員を置き、高校募集対策専従職員を 2 名体制とする。

3. 大学の新学部・新学科等の増設等

2019 年度に学部学科体制の大幅な変更を行った。これ以降現在のところ、当面は学部・学科についての新増設の計画はない。大学院については 2021 年度文学研究科言語学専攻（博士課程）の学生募集を停止した。なお、在籍する学生がゼロとなった時点で同専攻を廃止する予定である。

4. 大学の教育・研究関係

推薦入試など入学前年中に入学手続きを終える入学予定者全員に対して入学前教育（大学基礎講座）を 2 月に実施している。2021 年度は、2020 年度に引き続き、来学型の講座を実施せず、

オンライン講座（動画配信）による講座とした。2022年度はオンライン講座の有効性を検証し、来学型とオンライン型のどちらを実施するか検討する。

「学習成果の可視化」では、大学の教育課程の入口・出口の基幹科目と位置づけられる初年次教育科目と卒業研究について取り組みを進めてきた。2021年度はFD研修会を実施するなどして、各学科で両科目のルーブリックを作成した。2022年度はこれらを用いた評価を実施し、質向上と学修成果の可視化に向けた取り組みをさらに進める。

学修行動・学修成果を可視化する方法については、IR室を中心に検討を行っている。現在は、キャリア教育の一環として実施していた大学生基礎力調査（入学時）およびキャリアアプローチ（3年次）を実施しているが、アセスメント・ポリシーに沿った形で、学修行動・学修成果を把握する新しいアセスメント方法を構築する必要がある。

アクティブ・ラーニング形式の授業を増やしていくため、7号館の改修を実施し、PC使用を前提とした自習スペースの新規設置、演習室の改修、プロジェクターの設置・改修、および可動式机・椅子への入れ替えを行った。改修後、新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から積極的な運用を控えていたが、学生の利便性アップの観点から、自習室を中心に有効な運用方法を検討する必要がある。

2022年度入学生からキャンパスでのパソコン必携化、つまり学生自身のパソコンを常に携帯して学ぶBYOD（Bring Your Own Device）に移行することとなっている。持ち込みPCを利用した授業科目の準備を進めているが、順次対象となる学年が拡大することから、教育方針や授業内容の設計・改良とともに、電源やプリンター増設などハード面の設備の整備も必要となる。

5. 大学の学生募集計画

2022年度新入生の募集については359名（定員570名、定員充足率63%）の入学となり、2021年度入試以上に厳しい結果となった。今後の18歳人口の動向をみると、本格的な減少期に入り、年2万人以上のペースで減少が続くと予想される。また、周辺大学の入試状況をみても、全体的に年内入試にシフトするなど、従来とは異なる動きになっており、様々な変化に対応することが求められる。いずれにしても、2023年度入試については、定員確保に向けての学生募集を地道に進めていく必要がある。

現状を鑑み、2023年度入試は、新たな入試制度を導入し、学生募集強化の方策を構築していくこととする。

具体的な方策は、以下のとおりである。

- (1) 総合型選抜（AO入試）では、課題提出型に加え、プレゼンテーション型を実施する。
- (2) 学校推薦型選抜、一般選抜では、スタンダード型に加え、高得点重視型を実施する。
- (3) 総合型選抜（AO入試）、学校推薦型選抜、一般選抜において、全学科対象にCEFR基準のレベルにより加点を実施する。
- (4) 広報面については、公式サイト、SNSの活用や動画による本学の情報発信を引き続き推し進める。
- (5) 高校訪問の対象校数、進学ガイダンス等の回数を増やし、受験生やその保護者、高等学校に対する情報提供を強化する。
- (6) 大学案内の他、学科リーフレットの制作を進め、大学全体ならびに学科・専修の魅力をアピールし、本学の知名度の向上ならびに志願者数増加を図る。

以上